

第2部 ボランティア・市民活動推進

I 令和元年度事業総括

第1 運営方針

「2018～2022 市民活動支援センター中長期運営方針」に基づき、多様な個人・団体・企業等と協働しながら、運営委員会と共に開かれたセンター運営を継続することができました。

同運営方針が掲げる「市民参画による住み続けたいまちづくり」及び「未来に希望の持てる社会の実現」に向けて、多様な市民活動を支援する拠点として協働のパートナーとなるよう、情報の有効活用、参加の仕組みづくり、コーディネーション機能、分野を超えた協働、人材の育成・発掘等、中間支援組織として求められる機能や役割を果たし、同時に必要な財源の確保の工夫を進めることができました。

運営委員会で検討された社会的インパクト評価の手法を用いた「中長期運営方針」の成果指標にそって、センター及び各コーナーでの事業運営が、どのような成果が得られているのかを具体的に示す工夫はまだ十分とは言えませんが、引き続き、そこで得られた成果や課題を整理し、センター機能の充実を図っていきます。

第2 重点事業総括

1 人材の発掘及び育成

災害ボランティア養成連続講座や地域人材育成講座等の開催に加え、運営委員の方々や活動団体の方々の協力を得て開催した「えんがわカフェ」を通じて、人材の発掘・育成に取り組みました。

台風19号被災者支援の災害ボランティアセンターの設置が行われ、お越しいただいたボランティアの方々に、センターへの登録を要請し、82人の方に登録していただくことができました。

また、残念ながら開催できませんでしたが、市民で組織された実行委員会により「えんがわフェスタ」から独立して開催準備を進めた、「ちょうふこども協力隊」事業も新たな人材との出会いが多くありました。

職員の退職交代も相次ぎましたが、多くの研修に参加するとともに、市民活動団体の活動の現場訪問・見学をすることにより、見識を深め、その後の相談対応に活かすことができました。

2 情報の有効活用

情報誌えんがわだよりやセンターホームページの内容の充実に取り組み、新たにセンター公式LINEを開設し、サマーボランティアに参加した若年層に向けての発信を行いました。今後も情報収集にも取り組み、センターの活動につなげていきます。

3 市民活動助成事業「えんがわファンド」を活用した支援の充実

今年度のえんがわファンドでは、市内15団体に対し、約98万円の助成を行うことができました。また、サポーター会員の拡大に向けて、市内奉仕団体等へ赴き説明と依頼を行うことで、企業関係者の方の共感を得ることにつながりました。今後さらに市民活動に対しての共感者（サポーター）を増やし、「えんがわファンド」（助成金）を通じて多彩な市民活動を応援していきます。

4 パートナーシップの構築・強化

えんがわファンド助成先団体を含め、市内で活動する団体の活動現場に職員が訪問、見学させていただくこと、えんがわだより特集記事の取材に伺うことで、センターと各団体との連携強化・理解促進が進みました。

また、様々な事業に多くの市民活動団体のご協力を得ることで、さらに「つながり」を深めることができましたと思います。

各コーナーにおいては、地域の諸団体や個人、地域福祉コーディネーター等の調布社協他部署との連携を深めることができました。

5 災害対策・支援

台風19号による浸水被災者の支援のために設置された災害ボランティアセンターでは、初めての設置のため試行錯誤の中で多くの方々のご協力を得ながら運営することができました。そこで得られた経験と課題を整理し、今後の災害への備えにしていくとともに、調布市地域防災計画に基づく災害ボランティアセンターの設置及び運営マニュアルの整備を、調布市と協議を行いながら進めていきます。

また、災害ボランティア養成連続講座を開催し、延べ27人の参加があり、災害ボランティアとしての登録につながりました。

6 中長期運営方針の成果の確認

成果指標については、十分な確認ができているとは言えませんが、個々の事業の中では少しずつ成果が出始めてきていると思われます。引き続き、「中長期運営方針」の成果を確認しつつ、「使いやすいセンター」を目指して、常に改善を図っていきます。

7 その他

センター開設から15年が経過し、運営委員会とともに、より良いセンター、使いやすいセンターに向けての検討を進めます。

また、各コーナーへの支援を進めながら、市民ニーズに答えていくため、体制整備を行い、センター機能の向上、相談体制の充実を図れるよう検討が必要です。

II 個別事業

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	市民活動支援センターの受託・運営			市	○

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	ボランティア活動推進	会寄雑基	市		○

第1 センター及びボランティアコーナー（ランチ）の運営

1 市民活動支援センター運営委員会の開催

結果の概要

- 新任の5人を含め、第9期の運営委員を選任し、委員長に壽賀委員、副委員長に水田委員、横山由紀委員を選任した。
- 「市民参画による住み続けたいまちづくり」「未来に希望の持てる社会の実現」を目指して、年9回市民活動支援センター運営委員会を開催し、センター事業等について協議を行った。
- 5か年の市民活動支援センター中長期運営方針2年目として「運営委員会で取り組む4つのテーマ」を決定。各委員が検討部会を立ち上げたり、講座やイベントの企画実施、企業へのファンドレイジングアクションや他市センター視察など具体的なアクションを進めた。
 - ① えんがわフェスタで多様な市民参加を！
 - ② 市民が使いやすいセンターに！
 - ③ えんがわカフェで新たな出会いと学びの場を！
 - ④ えんがわファンドで市民活動支援と寄付文化の醸成を！

実績等

(1) 市民活動支援センター運営委員会 任期：平成31年4月1日～令和3年3月31日

氏名	選出区分	主な活動、所属など
壽賀 一仁（委員長）	市民公募	公募委員・一般社団法人あいあいネット
横山 由紀（副委員長）	市民活動団体	一般社団法人つなぐ会
水田 征吾（副委員長）	ボランティア	個人ボランティア
村上 むつ子	市民活動団体	Global 調布！
嶋田 浩一	市民活動団体	こくりょう子ども食堂わいわいプロジェクト
新國 政和	企業	さくらツーリスト株式会社
枝見 太郎	学識経験者	一般財団法人富士福祉事業団
平澤 和哉	市民活動団体	NPO 法人ちょうふこどもネット
児島 秀樹	市民活動団体	グッドモーニング調布！
横山 真理	市民活動団体	こんぺいとう子育てひろば

石井 美津子	市民活動団体	NPO 法人調和SHC倶楽部
梶井 文子	関係機関	東京慈恵医科大学医学部看護学科
熊谷 紀良	関係機関	東京ボランティア・市民活動センター
市瀬 秀	行政関係	調布市生活文化スポーツ部 協働推進課長
高木 直	社協関係	市民活動支援センター長

※都合により、横山由紀委員は、令和2年3月31日をもって退任となった。

(2) 令和元年度 市民活動支援センター運営委員会開催状況

第1回	5月13日	<p>【審議事項】</p> <p>正副委員長の選任 社会福祉法人調布市社会福祉協議会 理事候補者の推薦 平成30年度事業報告（案） 平成30年度資金収支決定報告書（案）</p> <p>【協議事項】</p> <p>今年度運営委員会の方向性</p> <p>【報告事項】</p> <p>2019年度えんがわファンド実施状況</p>
第2回	6月13日	<p>【協議事項】</p> <p>市民活動支援センター運営委員会 今年度の方向性</p> <p>【報告事項】</p> <p>えんがわファンド助成先団体決定 えんがわカフェ、サマーボランティア2019 チャレンジ！ちょうふこども協力隊</p>
第3回	7月26日	<p>【協議事項】</p> <p>えんがわカフェ実施状況</p> <p>市民活動支援センター運営委員会 今年度のアクション</p> <p>【報告事項】</p> <p>あくろす15周年事業及び調布まち活フェスタ</p>
第4回	9月24日	<p>【協議事項】</p> <p>市民活動支援センター運営委員会 今期取り組むテーマ（案） 市民活動支援センター次年度予算要求</p> <p>【報告事項】</p> <p>えんがわカフェ、サマーボランティア ちょうふチャリティーウォーク</p>
第5回	10月23日	<p>【協議事項】</p> <p>市民活動支援センター運営委員会 今期取り組む4つのテーマ</p> <p>【報告事項】</p> <p>調布市災害ボランティアセンター実施状況</p>

		調布サマーボランティア施設アンケート結果
第6回	11月12日	<p>【協議事項】 今年度取り組む4つのテーマの協議及び進捗状況共有</p> <p>【報告事項】 チャリティーウォーク実施報告（速報値） ファシリテーター養成講座、ちょうふこども協力隊</p>
第7回	12月19日	<p>【協議事項】 今年度取り組む4つのテーマの協議スケジュール（案） えんがわフェスタ企画（案） えんがわファンド行動計画（案）</p> <p>【報告事項】 市民が使いやすいセンター検討の方向性 えんがわカフェ実施報告 ファシリテーター養成講座実施報告</p>
第8回	1月23日	<p>【協議事項】 えんがわフェスタ企画概要の決定 市民が使いやすいセンターに</p> <p>【報告事項】 えんがわファンド企業訪問結果及び今後の予定 ちょうふこども協力隊</p>
第9回	2月13日	<p>【審議事項】 令和2年度 市民活動支援センター事業計画（案） 令和2年度 市民活動支援センター収支予算（案）</p> <p>【協議事項】 えんがわフェスタ2020 2020年度 えんがわファンド</p> <p>【報告事項】 市民が使いやすいセンターに！今後の計画 第6回調布まち活フェスタ実施予定 センター主催及び共催事業実施予定</p>
第10回	3月18日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) 令和元年度 市民活動支援センター常任委員会開催状況

部会名	常任委員会	実施回数	3回
内容	運営委員会で取り組むテーマ及び検討方法について		
担当委員	壽賀委員長、水田副委員長、横山副委員長		

(4) 令和元年度 市民活動支援センター専門部会開催状況

部会名	えんがわフェスタで多様な市民参加を！	実施回数	1回
内容	えんがわフェスタ企画検討		
担当委員	壽賀委員長、村上委員、嶋田委員		

部会名	市民が使いやすいセンターに！	実施回数	3回
内容	調布の市民活動が活発になるためにセンターのありたい姿について検討 武蔵野プレイス視察		
担当委員	児島委員、平澤委員（視察はオープン参加）		

部会名	えんがわカフェで新たな出会いと学びの場を！	実施回数	7回
内容	えんがわカフェの企画運営		
担当委員	横山副委員長、水田副委員長（テーマにより各委員が参加）		

部会名	えんがわファンドで市民活動支援と寄付文化の醸成を！	実施回数	3回
内容	ファンドレイジングアクションプランの検討及び企業訪問		
担当委員	新國委員		

分析・課題

- 4つのテーマ全てで、新しい手法あるいはターゲットに対する具体的なアクションを進めることができた。
- テーマ「市民が使いやすいセンターに！」については、ハード・ソフト両面で調査研究及び運営委員会全体での企画提案が必要であり、重点的に次年度取り組みたい。

2 市民活動支援センター利用者会議の開催

結果の概要

- 利用者会議は3月に開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、利用者が減少したことにより、アンケート調査への切り替えも検討した。しかし、アンケートの配布数の確保も難しい状況となったため、開催、アンケートの実施を断念した。

分析・課題

- 年度末実施としたことで開催できなかった。参加人数は少なくとも、年に数回利用者会議もしくは利用者アンケートの実施が必要であった。
- 日常の利用の中で、はばたき利用者と職員の会話から、無料で集まれる場所のあることへの感謝や多彩な団体が利用していることへの興味などのお話を伺うことができた。
- センターを利用されている方々の意見を聞き、今後のセンター運営に生かしていく。

3 市民活動支援センターサポーター会員制度

結果の概要

○地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する「えんがわファンド」の原資として活用した。

○目標としていた150口には届かなかったが、前年比11%増となった。

実績等

加入口数	R1	H30
一口／3,000円	121	109
合計額（円）	363,000	327,000

サポーター会員数	R1 実数	H30 実数
団体	64	57
個人	44	41
合計	108	98

新規・継続内訳	R1 実数	H30 実数
新規サポーター	24	17
継続サポーター	84	81
合計	108	98

分析・課題

- サポーター数、加入口数、新規、継続サポーター数いずれも増やすことができた。
- 1月に青年会議所、2月に東京調布ライオンズクラブへの説明と依頼を行い、企業からの協力を得ることができた。
- 今後さらなるPRを重ね、企業などへも積極的に働きかけ、実績を増やしていきたい。

4 市民交流事業の実施

(1) えんがわフェスタ2020の開催

結果の概要

○市民活動支援センター運営委員会で協議をし、新しいテーマ・ターゲットの企画をした。
(イベント自体は中止)

実績等

名称	知ってみよう 聞いてみよう 話してみよう いろいろな国の人の調布ライフ
目的	「おもてなしからおとなりどうしへ」 まちで見かけることが増えた外国籍の調布市民。オリンピック・パラリンピックを前に多文化共生が掲げられていますが、今だけのおもてなしだけでいいの？ 長く調布で暮らす外国籍の方と交流し、共に知りあうことで、私たちのまちが住みやすくなるヒントをみつけましょう。
日時	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 (予定：令和2年3月15日(日)午後1時30分～午後4時)
会場	市民活動支援センター

参加者数	中止		
内 容 (予定)	第一部 外国籍調布市民と歩み（調布市国際交流協会） 第二部 トークセッション「私の経験と交流のヒント」（ゲストスピーカー） 第三部 グループディスカッション		
協 力	ゲストスピーカー 4人（調布在住の外国籍市民及び関係者） 調布市国際交流協会		
主 催	市民活動支援センター	企画運営	市民活動支援センター運営委員会

分析・課題

- 調布に住む外国籍の市民をターゲットに企画検討をしたことで、日頃知ることのできないニーズが調布にもあることがわかった。調布に暮らす外国籍の方から個別相談もあり、市民活動団体に対応を依頼したケースもある。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベント自体は中止となったが、新たなニーズの掘り起こしと市民活動の可能性を広げるために、社会情勢が落ち着いたら本企画を実施したい。

(2) 第6回まち活フェスタ

結果の概要

- 市民活動団体や活動している個人の方々に、実行委員に参画していただき、広く出展団体を募集し、国領駅前広場でのステージ企画やテントによる出展、あくろす内各室や市民活動支援センターを活用しての出展と実行委員会での全体企画の準備を進めた。今回はあくろす15周年記念事業と連携し、開催準備も進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から事業を中止とした。
- 開催予定日は、3月7日（土）あくろす15周年記念祭、8日（日）第6回まち活フェスタとし、一部2日間共通プログラムも設けていた。
 - 実行委員の方々とメールでの調整も含め、2月25日には、中止の判断となり、出展団体や市民に中止の告知をしっかりとできたことで、当日来場された方はほとんどいなかった。

実績等

<第6回調布まち活フェスタ・当日> 中止とした。

分析・課題

- 早めに中止の判断となったことで大きな混乱はなかった。
- あくろす15周年記念事業との連携を進めたが、準備の過程で、全体の調整に手間取った。
- 実行委員のメンバーを少人数化して2年目だったが、効率化ははかられているが、実行委員の広がりには得られず、課題となった。
- 今回中止になったことで、実行委員や出展者の方々のモチベーションが下がり、次期の開催に課題となることが予想される。

5 ボランティアコーナー（ランチ）の運営

結果の概要

- 身近な地域に密着した相談・活動の拠点としてコーナーを設置している。
- 地域の人たちによって運営されている野ヶ谷の郷を含め7拠点のランチを運営している。小島町コーナー（月～金）、西部コーナー、染地コーナー（火～土）の3拠点が週5日開所、菊野台コーナー、富士見コーナー、緑ヶ丘コーナー、野ヶ谷の郷の4拠点が週3日（火、木、土）開所となっている。

（1）小島町コーナー

① ボランティア活動室利用者会議の開催

実績等

日 時	2月26日（水） 午前10時～11時30分
会 場	総合福祉センター2階ボランティア活動室
内 容	活動室利用方法の確認、利用日の調整、団体間の交流
参加者	12団体13人

結果の概要

- 活動室の利用方法についてルールの再確認をし、利用日について団体間の調整を行った。今回は新型コロナの影響で団体同士の意見交換や交流については、時間短縮のため割愛した。

分析・課題

- 活動室の稼働率が下がってきている。今後活動室を利用する団体の裾野を広げるため、参加者の知人への広報協力要請を行った。

（2）菊野台コーナー

実績等

① 第28回菊野台ボランティアまつり

開催目的	菊野台地区で活動しているボランティアグループ及びボランティア活動に関心がある人が一堂に会し、日頃の活動を紹介するとともに、相互交流を図り、ボランティア活動に関する情報提供及び地域の人々への啓発、交流を目的として行う。
日 時	5月26日（日）午前10時～午後3時
内 容	ボランティアグループの紹介、模擬店、バザー、舞台発表など。
会 場	菊野台地域福祉センター
参加者数	参加団体18団体 来場者数約400人、出演・出店者、スタッフ150人、
運 営	第28回菊野台ボランティアまつり実行委員会

②菊野台地域のつどい（小地域交流事業）

開催日時	11月23日（土・祝） 午前10時～午後3時
会場	菊野台地域福祉センター

③アロマ入門講座

開催目的	調布市社会福祉協議会を周知し、協力者を得る。菊野台地域福祉センター近くに開設されたコミュニティスペース「しばさき彩ステーション」と連携し、地域福祉に根差した活動を行う。緑ヶ丘地域福祉センターでの開催を望む声があり、同内容の講座を開催し、コーナーの協調を図るとともに、活動の機会を増やす。
開催日時	①6月22日（土） ②6月29日（土） ③10月15日（火） ④10月19日（土） ①～④13：30～15：00 ⑤11月21日（木） 14：00～15：00
会場	①③菊野台地域福祉センター ②④緑ヶ丘地域福祉センター ⑤しばさき彩ステーション
内容	①②虫よけスプレー ③④⑤アルガンオイル ハンドクリーム
参加者数	①18人 ②14人 ③16人 ④7人 ⑤13人

④菊野台ボランティア連絡会の開催

結果の概要

○菊野台コーナーを拠点に活動しているボランティア団体の代表が集まり、「第29回菊野台ボランティアまつり」の開催について話し合い、開催を決定した。

（開催日時） 令和元年12月17日（火）午後3時～5時 （参加者） 12人

（会場）菊野台地域福祉センター 第1集会室

分析・課題

○毎年参加していた「オヤジの会」、「あったかすーぷ」から、メンバーの高齢化、活動の主軸の変化により、次年度は参加できないとの話があった。

○「東京土建調布支部金子分会」は、住宅デーを菊野台ボランティアまつり会場で行うので開催を希望したが、他の団体からは積極的に開催を望む意見は聞かれなかった。

○次年度以降開催の継続は難しくなると考えられる。

⑤地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

結果の概要

○10月に、上ノ原・柏野小学校地域に新たに地域福祉コーディネーターが配置され、地区協議会、地域包括支援センターなど、地域のさまざまな団体との連携が持ちやすくなり、問題に対して多方面からの支援を行いやすくなった。

実績等

○初めてのスマホ講座 3月24日（火）、3月31日（火）両日とも延期

分析・課題

- 新型コロナウイルス感染拡大を受けて、初めてのスマホ講座は延期したが、地域の70歳代の方からの申込が多数あり、ニーズに合った企画を立てることができたと思う。
- 柏野小学校区は拠点がなかったが、菊野台コーナー以外でボランティアガイダンスを行うなど、連携して取り組む企画を立てることで、人材の発掘と地域のつながりを深めていきたい。

(3) 富士見コーナー

結果の概要

- 富士見はコーナーを拠点とした13グループのボランティア、市民活動団体、ひだまりサロンが活動した。また、6月に地域の住民が参加できる世代間交流の場として「富士見ふれあいのつどい」を開催し、1月には小地域交流事業パート2として「3世代で楽しむスポーツと音楽と遊び」を開催した。
- 居場所として立ち寄るシニア男性の割合が比較的多い。コーナーが地域の情報交換の場としての役割を果たしている。地域の若い親子連れや、小学生が来所して過ごすこともあった。
- 富士見地域福祉センターを拠点として活動したラグビーワールドカップボランティアと交流し、調布市内の情報提供を行った。
- 11月29日、市主催の講座「地域ボランティアデビューしませんか？」にて、門前そば打ちクラブ富士見会とともに登壇、参加者とのふれあいトークに参加し、ボランティア活動について情報提供と意見交換をした。
- 令和元年11月から令和2年3月まで富士見地域福祉センター改修工事のため、コーナーを閉館した。閉館期間は市民活動支援センターを拠点とし、富士見コーナーの担当地域や、浸水被害のあった染地地域を訪問して支援を行った。

分析・課題等

- ひだまりサロンが地域に増えていく中、既存のボランティアグループの統廃合がゆっくりと進んでいる。見守りが必要となる高齢者が増えてきていることを地域住民自身が真剣に捉え、安心して暮らせるまちづくりのために、住民の手による自助活動や集う場づくりの必要性を感じ始めている。地域包括支援センター、地域福祉コーディネーターと連携をとりながら、地域全体で互いに見守りあう体制づくりに向けて、より現実に即した具体的な提案を行い、ボランティアグループとともに支援をしていく必要がある。

実績等

① 令和元年度 富士見ふれあいのつどい（小地域交流事業を兼ねる）

開催目的	地域にある福祉団体や施設、学校、ボランティア団体が参加し、実行委員として企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的として年1回開催している。
日時	6月15日（土）午前10時～午後2時30分
会場	富士見地域福祉センター

② 地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

結果の概要

- 地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との密な連携により、地域のニーズや課題の発見や掘り起こし、こまやかな支援にむけて、ボランティアコーディネーターは、ボランティアコーナーでその活動に協働、協力している。個人の問題解決の糸口となった事例もあった。
- 第4次調布市地域福祉活動計画推進委員会から立ち上がり、高齢化率の高い富士見地域の課題に向けて、地域の活動団体の交流、ネットワークの強化など、今後の発展を見据えた取り組みを進める「富士見地域盛り上げ隊」の活動を支援した。
- 地域の声を拾い上げ、福祉活動の推進を支援していく。

実績等

- 「富士見地域盛り上げ隊」の東京五輪音頭-2020-の練習支援、富士見町盆おどり参加。
- 「地域の居場所を考える会」の広報物作成に協力。
- 地域包括支援センターちょうふの里主催の地域ケア会議に2回出席。
 - ・ 9/24 第1回 テーマ「気づいてつながろう！ 高齢者の消費者トラブル防止のために」
 - ・ 11/12 第2回 テーマ「自立支援とは何か？ ケースを通して考える」

(4) 染地コーナー

結果の概要

- 染地コーナーを拠点に活動している19のボランティア、市民活動団体、ひだまりサロンが中心となって5月に第23回「ボランティアまつり染地」を開催した。ボランティア活動に積極的に取り組んでいる調布市立第三中学校の生徒、また吹奏楽部保護者、OBなど若い世代を巻き込み、地域住民の世代間交流の場として地域に根づいている。
 - 12月には5月に開催したボランティアまつり染地のスタッフも地域住民と一緒に楽しむことを目的に小地域交流事業パート2を開催した。
- 染地地域の高齢化が進行する中で、コーナーの在り方について柔軟な対応が問われている。ボランティアコーナーは、ボランティア・市民活動の活動の場に限らず、高齢者が気軽に立ち寄り相談できる窓口、情報交換の場としての高齢者の緩やかな見守りを兼ねた居場所となっている。
- 11月29日、市主催の講座「地域ボランティアデビューしませんか？」に調布パソコン&相談メンバーとゲストとして出席。退職後、地域で活動を探している方々へボランティア活動の魅力、また染地コーナーの活動紹介をし、参加者に向けてボランティア活動のきっかけづくりに協力した。
- 昨年10月台風19号により、染地地域は浸水被害に見舞われた。それに伴う災害ボランティアセンター立ち上げ・運営に協力した。終息後は、写真・アルバム洗浄ボランティア活動の支援を継続して行っている。今後も週2回の活動を継続する。
 - また、写真・アルバム洗浄活動団体(調布 SPV)を支援する中で、今後、災害が起きた時、調布 SPV が、災害ボランティア活動団体として機能できるよう支援する。

実績等

① 高齢者の見守り《バリアフリー映画体験会》

開催目的	高齢者のゆるやかな見守り
開催日時	① 4月12日②5月10日③6月14日④7月12日⑤8月9日⑥9月13日 ⑦10月11日⑧11月8日⑨12月13日⑩1月10日⑪2月14日⑫3月13日 月1回 第2金曜日 午後1時30分～3時30分
会場	染地地域福祉センター 第1・2集会室
内容	男はつらいよシリーズを全巻観よう！！
参加者数	毎回15～19人（スタッフ2人）

② 高齢者の社会参加・場の提供《マルつけボランティア・見守りボランティア》

開催目的	地域小学校からの依頼に地域住民が協力・高齢者の社会参加
開催日時	・マルつけボランティア ①4月24日②5月8日③5月22日④6月5日⑤6月19日⑥7月3日⑦7月17日 ⑧9月18日⑨10月9日⑩10月23日⑪11月6日⑫11月20日⑬12月4日 ⑭12月18日⑮1月22日⑯2月5日 いずれも水曜日 午前9時～12時 ・見守りボランティア ①4月⇒10回②5月⇒12回③6月⇒15回④7月⇒13回⑤9月18回 ⑥10月⇒15回⑦11月⇒12回⑧12月⇒13回⑨1月⇒13回 ⑩2月⇒14回⑪3月⇒15回 小学校の授業にそった日程 9：30～11：30
会場	マルつけボランティア⇒杉森小学校会議室 見守りボランティア⇒各教室
内容	・マルつけボランティア⇒各学年ベーシックテストマル付けのお手伝い ・見守りボランティア⇒集団行動が苦手な児童の安全確保
参加者数	・マルつけボランティア⇒8人のボランティアで対応 ・見守りボランティア⇒5人のボランティアで対応

分析・課題

○地域の小学校からのボランティア依頼でスタートしたマルつけボランティア、5年目を迎え、定着してきた。

○低学年の見守りボランティアは新入生を中心に落ち着きのない子ども、特性が際立ち集団行動になじめない子どもの対応に試行錯誤の連続ではあるが、ボランティア同士、クラス担任との情報交換の場を提供し問題を共有することで、少しずつではあるが活動が定着し活動の場を広げている。さらにボランティアにとって、どのような支援が必要なのか模索していきたい。

③高齢者の社会参加・場の提供《写真・アルバム洗浄》

開催目的	写真・アルバム洗浄・高齢者の社会参加
開催日時	11月⇒6回（2日・9日・16日・21日・25日・29日） 12月⇒5回（7日・12日・14日・19日・21日） 1月⇒4回（16日・18日・23日・25日） 2月⇒7回（1日・8日・13日・15日・20日・22日・27日） 3月⇒7回（5日・7日・12日・14日・19日・21日・26日） 毎週 木曜日・土曜日 午前10時～15時
会場	染地地域福祉センター 貸し出し室
内容	浸水した写真・アルバムの洗浄
参加者数	概ね5人のボランティアを中心に随時ボランティア募集する

分析・課題

○災害ボランティアセンターを閉鎖後、浸水被害に遭った写真・アルバムの洗浄活動をスタートした。写真・アルバム洗浄のノウハウを全く知らなかったため、すでに活動している課外あらいぐま副代表からレクチャーを受け、ボランティアを募集、高齢者でもできる災害ボランティアとして支え合い推進委員と連携、講座を開催し、現在の活動につなげた。

写真・アルバム洗浄ボランティア団体は調布SPVとして、今後起こりうる災害時に活動できる団体になるよう活動を支援する。

④第23回 ボランティアまつり染地（小地域交流事業を兼ねる）

開催日時	5月19日（日）午前10時～午後3時
会場	染地地域福祉センター
内容	舞台発表・展示・体験・子どもあそびコーナー、模擬店、バザーなど
参加者	28団体 約680人（関係者を含む）
主催	調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター
運営	第23回ボランティアまつり染地実行委員会
テーマ	みんなおいでよ ともだちになろう

（実行委員会の開催状況） 全4回

⑤染地小地域交流事業 パートII

開催日時	12月15日（日）午前11時30分～午後2時
会場	染地地域福祉センター
内容	1部、東京外国語大学 インドネシア舞踊部 インドネシア舞踊 食事タイム おにぎり&豚汁&ピサンゴレン（150円） 2部、Voci Rane & 今別府順子（ピアノボランティア）合唱&一緒に歌いましょう
参加者	93人（スタッフを含む）
主催	調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター
運営	染地小地域実行委員会

テ ー マ	みんなおいでよ ともだちになろう 染地で広げよう！つなげよう！ 令和の「わ」
-------	---

(実行委員会の開催状況) 全1回

⑥地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携 結果の概要

○地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携により、地域のニーズの掘り起こしや、こまやかな支援が可能となった。特に、地域の抱える問題（高齢者を抱える家族の問題、1人暮らしをしている精神に障がいを持つ方の問題、その周辺住人とのかかり方）について、今まで以上に地域包括をはじめ関係機関と連携がスムーズになった。

○地域福祉活動計画推進委員を中心に、地域の若いお母さん世代を巻き込んで立ち上がった「子どもの居場所・0miso」の活動を支援すると共に、若い世代の人材発掘に取り組んでいきたい。

実績等

○子ども居場所「0miso」を開催する

日時・内容	①7月6日（土）いっしょにつくろう！ オリジナルペーパーウエイト ②8月3日（土）夏休みイベント いっしょにつくろう！ ぞうきんづくり ③9月1日（土）いっしょにつくろう！ オリジナル布バック ④11月2日（土）いっしょにみよう！ 映画体験 ⑤12月7日（土）いっしょに作ろう！！いろいろクリスマスオーナメント ⑥2月1日（土）はじめての体験「着物、着付け教室 ～自分で着てみよう～」 中止 ⑦3月2日（土）めざせ！！お手玉達人第2弾（豚汁・おにぎり付き） 中止 月1回 第1土曜日 10：00～12：00
会場	染地地域福祉センター 大集会室
テーマ	地域のお母さん達が「地域の子どもたちにいろんな体験を通して、笑顔になってほしい」と、毎回さまざまなアイデアを出し合い試行錯誤して作り上げたプログラムを提供。子どもの居場所をめざす。
スタッフ	4人
参加者	合計63人

分析・課題

○地域に2つある小学校を対象に、子ども達にとって興味をそそる、親しみやすい企画を出し合い、手作りのチラシを作成、広く児童に周知した。その結果、「0miso」の活動が徐々に浸透、定着してきた。反省として、2月に企画「着付け教室」については申し込みがなかったため中止とした。何故、参加者がいなかったのか振り返りを重ねている。また、3月はコロナウイルスの影響で会場が使用できず中止とした。次年度も継続して「0miso」の活動を支援したい。

○0misoを支える若い世代の方々と交流する中で、新たにボランティアまつり染地を支えるスタッフが育ってきている。

⑦地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）との連携
実績等

○染地筋トレ通う（火曜）会&若がえり 脳トレリトミック

開催目的	高齢者のゆるやかな見守り
開催日時	・10筋体操 毎週火曜日 全51回 ・若がえり脳トレリトミック 月1回 第1火曜日 9月以降4回実施 ※2月・3月はコロナウイルス拡大防止のため中止
会場	染地地域福祉センター 第1・2集会室
内容	介護予防「10の筋カトレーニング」を実施 高齢者むけリトミック
参加者数	毎回15～19人 ※伊藤講師を迎えて「若がえり 脳トレリトミック」を実施

○地域支え合い推進委員と連携して、月2回実施してきた住民主導型介護予防「鬼石モデル」（高齢者の暮らしを拓げる10の筋肉トレーニング）だが、参加者の強い要望もあり、週1回に増やして実施した。男性の参加も増え定着してきた。

9月以降は、高齢者向けリトミックを指導している伊藤講師に協力を依頼、10の筋肉トレーニング後、自由参加ではあるが、月1回「若がえり脳トレリトミック」を実施した。

見守りを必要とする高齢者にとって、住民同士の緩やかな見守りの場となるようこれからも支援する。

○災害ボランティアとして高齢者の方でも気軽に参加できるボランティア活動として写真・アルバム洗浄ボランティアの活動を紹介・体験する「地域支え合い講座」を2回シリーズで開催した。

(5) 緑ヶ丘コーナー

結果の概要

○今年度は、講座の開催も行ったが、その後、新たなグループの立ち上げには至らなかった。

参加者、メンバーの高齢化とともに、「気軽さ」「健康」がキーワードとなり、関心のある手づくりの講座や脳トレ講座、10筋体操など新たに取り入れ、皆さんの活動の場の支援を行った。

○緑ヶ丘ボランティア連絡会も、「夏休み親子体験」を「おせっかい広場」の協力を得て、コーナーとの共催で開催したが、代表者の脱会があり、存続できるかなど、新たな課題もある中、メンバー全体の意志で継続することとなる。引き続き前向きな支援をしていきたい。

○坂本・田中CSWとの連携をとり、地域の課題へ共に関わることを務めた。仙川子ども食堂の新規開設と定期的な開催。相談の場として、コーナーを利用したカフェの日を設けた。地域包括支援センター仙川との連携を取り地域の課題へCSWと共に取り組むことができた。

①第19回緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい（ボランティアまつり・小地域交流事業）

結果の概要

○小地域交流事業の欄で報告の為、省略します。

実績等

- 「緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい」・〈ふれ愛のつどい パート1〉－令和 はじめのまつりだ ワッショイ！－

	11月10日（日）午前10時～午後3時
会 場	緑ヶ丘地域福祉センター全館
参加者	500人

- 「ふれ愛のつどい パート2」 ※新型コロナウイルスの影響で中止
－みんなで「五輪音頭」と「パプリカ」を踊ろう！－

	令和2年2月29日（日）午後1時～午後3時30分
会 場	緑ヶ丘地域福祉センター 全館

②「2020夏休み親子体験！」の実施

※緑ヶ丘ボランティア連絡会とおせっかい広場との共催

結果の概要

- 子供たちの体験とボランティア間の交流を目的として、例年夏休みに開催している。
高齢化の課題を抱えるボランティア連絡会と、地域の繋がりを求めるおせっかい広場がサポートする形で今回は初めて共催での開催を試みた。
○隣接する児童館のデイキャンプと重なったが、キャンプ終了後の児童たちが立ち寄ってくれて、賑わった。

実績等

	8月3日（土） 午後12時30分～午後4時
会 場	緑ヶ丘地域福祉センター 全館
内 容	体験：魚釣り・手作りゲーム・ミニ手話・和太鼓・大人の塗り絵・折り紙・ホットケーキ作り・輪投げとスーパーゲーム 他休憩室でお茶サービス・風船プレゼント
参加者	合計 156人 内訳：幼児27人 小学生50人 大人35人 スタッフ44人 (Vo連絡会30人 おせっかい広場7人 サマーボランティア4人 社協2人)

分析・課題

- 連絡会とおせっかい広場との共催は、温度差があり難しい。今後は連絡会がどのような方法で開催していくのが望ましいか、次年度も共に検討していきたい。

③「認知症サポーター養成講座」の開催 ※地域包括支援センター仙川と共催

結果の概要

- 中学2年生対象とした開催の5年目。地域の協力による劇団「G2 カイズ」の寸劇を取り入れ、身近に考えるきっかけとなる。学校の協力により、年間の授業に組み込まれることになった。認知症についての正しい知識を学び、終了後にはオレンジリングが各自へ渡された。

実績等

日 時	5月13日(月) 5校時～6校時
内 容	調布市立第八中学の2学年生徒62人 他教諭4人を対象とした講座 G2カイズによる寸劇・ミーティング・発表
参加者	合計77人 生徒62人・教諭4人 ・他 G2カイズ4人・包括仙川4人・社協 2人・ゆうあい福祉公社2人
会 場	第八中学校 視聴覚室

④アロマ入門講座 ※菊野台コーナーと共催で2回開催 詳細は菊野台コーナーから報告

結果の概要

- 菊野台コーナーとの共催での開催は初めてだったが、参加される方がご都合に合わせて、どちらかの会場と日時を選んでいただける利点があった。
- 関心の高さが感じられたが、金額的にも、今後も単発での開催を考えたい。

実績等

第1回「アロマ 虫よけスプレーづくり」

日 時	6月29日(土) 午後1時30分～午後3時
会 場	緑ヶ丘地域福祉センター
参加者	14人

第2回「アルガンオイルのハンドクリームづくり」

日 時	10月15日(火) 午後1時30分～午後3時
会 場	緑ヶ丘地域福祉センター
参加者	7人

⑤地域包括支援センター仙川、地域福祉コーディネーター

(コミュニティソーシャルワーカー)との連携

結果の概要

- 地域福祉コーディネーター(コミュニティソーシャルワーカー)と共に、月に一回の定期開催の地域包括支援センター仙川との合同会議(包括・社協会議)へ坂本CSW, 田中CSWと出席し、情報提供など、地域の問題・課題を共有することができた。
- 地域包括仙川主催の地域ケア会議へ出席
- 8/20(火)第1回 テーマ～地域で住んでいきたい～
「高齢者の住まいについて」施設編 仙川くぬぎ園
- 9/26(木)第2回 テーマ いつまでも地域で住みたい「今から考えよう」終活編「介護、医療、成年後見(初級)など」○認知症カフェ「仙川オレンジカフェ」 毎月第4火曜日開催
緑ヶ丘地域福祉センターにて、地域のボランティアスタッフが中心となり運営。毎月学びたいテーマをスタッフ会議で決め、専門分野の方を呼ぶなど、包括・社協が支援の形をとって定期

開催が整ってきた。

参加者はほぼ30人で、新しい参加者も少しずつ増えている。

○「仙川こども食堂」の新規開設へ向けての準備会から開催へ、坂本CSW、田中CSWと共に関わり参加した。

○10の筋肉トレーニングの地域福祉センターでの開始にあたり、包括の職員のサポートとして、参加する方の見守り支援を行った。

⑥地区協議会「まちづくり協議会」との関わり

結果の概要

○奇数月の定例会及び総会への出席 6回

○文化交流分科会のメンバーとして参加

① 7/27(土) うたごえサロン

② 12/8(日) 老若男女!大人も子供もみんな一緒に 「スポーツしようよ!!!」

③ 3/15(日) 緑ヶ丘コンサート ―声楽とピアノで綴る春の調べ― (中止)

④ 3/28(土) 桜まつり (中止)

分析・課題

○地域の様々な分野の方たちとの情報交換と交流の場となっている。

○まちづくり通信(年4回発刊)では、ふれあい給食や高齢者会食、ひだまりサロンの活動について特集で取り上げ、掲載された。

(6) 西部コーナー

結果の概要

○今年で5年続けての開催になった第五中学校のボランティアダンス部による「心も体も温まる地域交流祭」、自分達の手で地域の皆さんを元気にしたい、楽しませたいと生徒達自身で企画・運営。部員13名で司会進行、ダンス、クイズと精一杯地域の方々を楽しませてくれた。ハンドマッサージも恒例となり、大変好評だった。合唱部は、77名の素晴らしい歌声を聴かせてくれ、昨年「PTAコーラス」も参加、世代間の交流も深まった。

○電気通信大学の大河原一憲先生の主導によるスクエアステップ運動の体験会を開催。

参加者同士和気あいあいと楽しめる運動であると大変好評で もっと続けたいという希望者が多く、自主運営団体として活動していくことになった。

大河原先生のご厚意でスクエアステップ専用マット5枚を貸与して頂いた。現在は、代表者を中心に参加者全員で協力し合いながら活動を続けている。

○今年度も「西部うたごえ広場」「健康歌声サロン」がえんがわファンドの助成を受け、1年間活動支援をした。

○CSWと連携してひだまりサロンの活動を支援した。

○高齢者ご本人や介護者から健康不安などの話を聴くことが多くなった。必要があれば関係機関につなぎ、その後も声をかけ見守っている。

○近隣3地域包括支援センター(せいじゅ・ちょうふの里・ちょうふ花園)と相互の事業への協力。

① 市民交流

実績等

・『西部ふれあいのつどい』（小地域交流事業）

開催目的	地域の中で 知り合い、互いに支え合い、助け合って安心した生活が送れるよう「集いの場」づくりと 世代間交流活動を行う
日時	令和元年10月27日（日）午前10時～午後3時
内容	舞台発表、バザー、消費生活啓発、介護保険相談
会場	西部地域福祉センター
参加人数	来場者 400人、スタッフ 40人
主催	西部ふれあいのつどい実行委員会、社会福祉協議会

実行委員会 3回開催

分析・課題

- カラオケ演奏に加え、地域で活動している団体の参加が年々多くなり、幅広い年代層の参加者が増えている。来場者は、子どもから高齢者まで、地域の世代を超えた交流の場となった。
- 第五中学校のボランティアダンス部の部員が 舞台出演だけでなく、ボランティアとして参加、舞台進行補助、募金活動のポップコーンのブースを手伝い 活躍してくれた。
- 民生児童委員がオリパラ音頭を踊り、舞台上で各地域担当の委員を紹介。来場者に 自分の地域の民生児童委員の顔を覚えてもらう良い機会になった。
- 消費者相談コーナー、介護保険相談コーナーでの相談は無かったが、プログラムの中で 来場者に 消費生活相談委員から消費者啓発センターを紹介、また地域包括支援センターからは 劇、みまもっと体操を通して 高齢者見守りの大切さを周知できた。

実績等

・第五中学校ボランティアダンス部生徒による『心も体も温まる地域交流祭』

開催目的	地域の方々と仲良くなりたい、交流したいと 第五中学校ボランティアダンス部の生徒達が企画・運営。
日時	令和2年2月16日（日）午後1時～3時 舞台終了後 ハンドマッサージ ～4時
内容	ボランティアダンス部員によるダンス発表、来場者を交えたクイズ、合唱部77人による合唱、ボランティアダンス部と合唱部の合同ダンス、PTAコーラスによる合唱、地域包括支援センター「みまもっと」紹介、ボランティアダンス部によるハンドマッサージ
会場	西部地域福祉センター
参加人数	来場者 56人、 第五中学校関係者 119人、 スタッフ7人
運営	第五中学校ボランティアダンス部、市民活動支援センター
主催	市民活動支援センター 西部コーナー

結果の概要

- 5年続けての開催となり、地域ではすっかりお馴染みになった。あいにくの雨であったが、来場者は例年より数人少ないだけで、多くの方々に楽しんでもらった。
- 舞台と客席が一体になり暖かい雰囲気が進められ、部員全員13人が全力で取り組み、精一杯地域の方々を楽しませてくれた。ハンドマッサージも恒例になり、楽しみにされている高齢者が多く、整理券を発行するほど大変好評だった。同校合唱部が77人参加、素晴らしい歌声を聴かせてくれた。昨年からはPTAコーラスも参加、更に世代交流が深まった。
- ボランティアダンス部が用意し、来場者に配布された災害時携帯トイレがとても喜ばれた（青少年赤十字社が材料提供、ボランティアダンス部生徒がセット作成）。

実績等

・『スクエアステップ運動体験会』の開催

開催目的	高齢者の転倒予防、認知機能向上をはじめ 成人の生活習慣病予防に効果のある運動を紹介。
日時	6月13日、20日、7月11日、18日、8月8日、15日、9月12日、10月10日、17日、11月14日、21日、12月12日、19日
内容	電気通信大学の大河原先生による主導で 専用マットを使い ゲーム感覚で楽しく出来る運動。運動を継続することにより 足の運びが良くなり、体力の向上、認知機能の若返りも期待できる。
会場	西部地域福祉センター 大集会室
参加人数	参加者 250人、6か月、13回

② 地域との連携

結果の概要

- 『西部地域ネットワーク会議』（3包括、コミュニティソーシャルワーカーとコーナー）
年2回開催定期的な会議開催で顔の見える関係ができています。情報を共有することで、迅速にサービスへとつなぐことができました。
- 『多摩川地区協議会防災訓練 防災まちあるき』への参加
4月27日（土）多摩川小学校の生徒、保護者、地区住民と一緒に災害時を想像しながらグループで学区域を歩くことで、多くの気づきがあった。地域の問題点、解決方法を参加者で話し合うことで交流も図れた。

分析・課題

- 気軽に立ち寄れる地域の交流の場、居場所として利用されている。ボランティア・市民活動の拠点としての活用も広がるよう支援していきたい。
- 地域の諸機関と連携し、広報活動等協力していきたい。
- 地域の高齢者にも恒例となった五中ボランティアダンス部による「心も体も温まる地域交流祭」は、生徒が安心して実施できるよう後方支援を継続したい。

(7)野ヶ谷の郷

結果の概要

○梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成16年11月1日にオープンした市民活動支援センターのランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民（野ヶ谷の郷運営委員会）が運営している。

【概要】

機能	① ボランティアビューロー機能 ②貸スペース機能 ③福祉ショップ機能 ④地域活動拠点機能 ⑤活動発表ギャラリー
開設日	火・木・土曜日（年末年始を除く）※ボランティアスタッフが当番で開設
貸出日	毎日（年末年始を除く）
スタッフ	41人（うち役員7人）

実績等

① 総会・スタッフ交流会

日時	4月18日（木）午前10時30分～11時30分
内容	以下の議案を提案し、承認された。 ・平成30年度事業報告・平成30年度決算 ・令和元年度事業計画（案）・令和元年度予算（案） ・令和元年度役員（案） 総会終了後、交流会及び「野ヶ谷の郷」うたごえ広場を開催した。
参加者	出席26人、委任状提出13人

② 野ヶ谷の郷運営委員会役員

代表	四家 綾子	会計監査	百合田 紀恵子	役員	小阪井 真樹子
副代表	小澤 康史	役員	平柳 千鶴子		
会計	磯野 幸子	役員	石川 規子		

③ 役員会

全6回開催した。

④ 野ヶ谷の郷だよりの発行

野ヶ谷の郷や地域の情報を発信するため、「野ヶ谷の郷だより」を計3回各1,300部発行し、周辺自治会等に配布した。

⑤ 梅の湯商店会まつり「納涼祭」

梅の湯商店会会員として商店会まつりに参加した。

開催日時	8月26日（月）午後1時～5時
会場	「梅の湯」駐車場および野ヶ谷の郷
内容	野ヶ谷の郷の開放、飲食提供による交流、昔遊び体験

⑥ イベント・講習会

「うたごえ」を通じて楽しみながら交流するイベントや、生活に関連したテーマの講習会を開催した。

内 容	開催日時	詳細	参加者数
野ヶ谷の郷「うたごえ広場」	4月18日(木) 午後2時～4時	伴奏 富永節子氏 (アコーディオン)	30人
第16回講座「ガラケー・スマホの疑問解消」	12月12日(木) 午後1時30分～3時30分	講師 野ヶ谷の郷 副代表 小澤 康史氏	29人

分析・課題

- 「うたごえ広場」「講座」「納涼祭」等、どれも参加者が多く地域に開かれた拠点となっている。
- 野ヶ谷の郷ボランティアスタッフ同士で新たなスタッフを呼びかける等、スタッフが減ることなく安定した運営をしている。

第2 情報・資料の収集及び提供

1 えんがわだよりの発行

結果の概要

- ボランティア募集や市民活動に関する話題を月刊情報誌として発行した。
- ボランティア・市民活動情報を提供するため、年11回発行。
- 多くの方に手にしてもらおう工夫として、関連講座での参加者配布を心掛けている。
- えんがわだよりは手に取った方が「関わられる・関わりたい」と思えるニュースレターを目指す。
- 今年度は、「グッドモーニング調布!」「すたんぷあくろす」「日本語ボランティアの会」等の団体への取材を行い、団体の活動を広く発信した。

【概要】

発行目的	「市民参画による住み続けたいまちづくり、未来への希望が持てる社会の実現」を目指して、市民活動への市民の理解や参加を促進するとともに市民活動団体の活動の発展をはかる。また、記事づくりを通して新たな人々との関係構築をはかる。
編集方針	<ul style="list-style-type: none"> ○市民活動の情報を収集・提供し、市民活動の裾野を広げていくこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動等の市民活動について、分かりやすい内容と切り口で紹介し、市民への理解と参加を促進する。 ・活動者・関係者の事業に役立つ具体的な情報を提供する。 ・市民活動団体の情報発信源となる。 ○社会課題・地域社会に対して読者とともに考えていくこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会課題にとりくむ市民活動などを通して、地域社会の現状と将来について考えていく。 ・さまざまなネットワーキングを通して、地域や人との課題を掘り下げながら、地域と人のつながりのあり方を考えていく。 ○市民活動支援センターの考えや方針を伝えていくこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・センター事業の報告などを通じ、センターの取り組みを紹介する。
発行日	毎月15日発行
発行部数	毎月1,800部
配布先	<ul style="list-style-type: none"> ・市内公共施設、市内小・中・高等学校、市内大学 ・市内企業(弁当チェーン店、郵便局、京王線駅頭など) ・市民活動支援センターサポーター ・東京ボランティア・市民活動センター他都内ボランティア・市民活動センター
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特集記事(地域の市民活動団体紹介、社会課題の取り組み紹介など) ・ボランティア募集 ・お知らせ(地域の市民活動情報、助成金情報など) ・センターからの発信(コーディネーターの感じた事、周知したい活動紹介) ・市民活動支援センターって、何をするとところ?

実績等

各号の特集記事の内容

号数	内容
4月号 (No.154)	障がいを知る市民活動支援センター出前講座 「この思い、出前します」
5月号 (No.155)	クラウドファンディングと市民ファンド 「顔の見える寄付ともしっかり大切なこと」
6月号 (No.156)	グッドモーニング調布！ 「街の“出演者”になる方法」
7月号 (No.157)	大学生のボランティア 「地域との関わりと世代間交流」
8月号 (No.158)	コミュニティスペース もえぎ屋 「日々の暮らしをもっと楽しく」
9月号 (No.159)	調布サマーボランティア 2019 「ボランティアっておもしろい」
10月号 (No.160)	編み物で社会貢献！ 「自分の好き！が活動のエネルギーになる」
11.12月号 (No.161)	「新しい居場所で社会の役に立つ」
1月号 (No.162)	多文化共生を目指して 「同じ時間を共有し生まれる関係」
2月号 (No.163)	写真洗浄ボランティア 「今のわたしにできること」
3月号 (No.164)	マルチメディアデイジー図書 「楽しく読むために」

分析・課題

○「サマーボランティア」「写真洗浄ボランティア」といったその時々注目されている話題を提供することができた。また取材やコメント掲載を通して多くの団体とセンターの繋がりができるので、今後もえんがわだよりをきっかけとした個人・団体同士のつながりを増やしていきたい。

○より多くの人に興味をもってもらうために様々な視点からの特集記事を組めるよう、多くの団体との繋がりをさらに築いていきたい。

2 えんがわだよりオンライン（えんがわだよりブログ版）

結果の概要

○平成20年3月より、シーサー株式会社運営無料ブログサイトを活用し、WEB上でえんがわだよりの配信を行っている。

3 市民活動支援センターホームページ運営

より多くの市民が市民活動にかかわるきっかけを得る媒体のひとつとして役立てるため、市民活動支援センターのホームページを運営した。

ホームページの構成については、市民活動団体の情報の受発信（イベント予定や内容の報告、新規メンバー、ボランティア・参加者募集など）を支援すると同時に、「調布市生涯学習情報コーナー」「ちょうふ地域コミュニティサイトちょみっと」と連動して、より多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体のひとつとして情報の共有化、ページの見易さ、使い易さを工夫している。

結果の概要

- 登録団体数については、市内の特定非営利活動法人調布市地域情報化コンソーシアム（以下、CLIC）や、地区協議会、調布市立図書館の情報発信事業である「市民の手によるまちの資料情報館」のサイトと情報共有を図り、現在596団体がセンターの団体ページを公開。（他に、団体の事情、活動休止、廃止等の都合によりページ登録中の非公開団体が283団体）
- 主な項目は、「団体検索」「イベント・講座」「市民活動（NPO/地域活動）とは」「寄付・助成金」「ボランティア情報」「企業の社会貢献（CSR）」「センター利用案内」など。
- 調布市が平成29年4月に始めた「ちょうふ地域コミュニティサイトちょみっと」とのシステム連動で、「団体登録」「イベント情報」が連動して掲載されることになった。

実績等

トップページアクセス数（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
H30年度	1,786	1,948	2,710	2,725	2,007	1,618
R1年度	3,428	3,418	3,779	3,811	2,887	3,083
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H30年度	1,852	1,778	1,494	1,456	1,594	1,723
R1年度	7,285	3,209	2,955	3,443	3,106	2,787

- アクセス解析で、Google アナリティクス（WEB アクセス解析ツールの名称）は30分以内のアクセスは1アクセスとしてカウントしている

分析・課題

- 6月から7月にかけて検索でアクセス数が増えている。調布サマーボランティア2019のチラシにQRコードを掲載し、センターHPにアクセスできる仕組みを作り、学生からのアクセスが多くなったと予想できる。
- ホームページアクセスでは、とボランティア情報に関するページが最も多く、続いてセンターからのお知らせ欄への検索が多くなっている。イベント情報や助成金情報も更新しているが、

そちらの検索数は他より少ない。イベント検索や市民活動についても、これまで以上に多様な情報をアップし、ホームページの充実化を図っていきたい。

- 「CSR・企業の社会貢献」については内容がまだ不十分である。ボランティアを募集している事業所や団体、社会貢献に取り組む企業へ直接アプローチし、関係性を築いていきたい。

4 資料コーナーの充実

より多くの市民がボランティア・市民活動に関わるきっかけを得る媒体のひとつとして役立てるため、市民活動支援センターに資料コーナーを設置している。

結果の概要

- ボランティアやNPO関連のみならず、幅広い分野のチラシやポスターを配架、掲示したことで、多様な活動情報を提供した。調布市のみならず、都内で市民活動の拠点となっているセンターや施設、団体のニュースレターを閲覧と保存のため分野分けをしている。
- サポーター会員になっている団体専用のチラシラックを設置し、広報の支援を行った。

実績等

(1) チラシ等受入数内訳（平成31年4月～令和2年3月）

内容	R1	H30	分野	R1	H30
講座・講演	344	580	ボランティア・市民活動支援	237	478
イベント	249	287	福祉・保健	247	334
ボランティア募集	39	33	災害	29	73
スタディツアー・キャンプ	6	7	まちづくり・地域安全	99	83
寄付・募金	13	14	人権・国際協力・男女共同参画	107	137
団体・活動紹介	80	128	社会教育	17	12
スタッフ・メンバー募集	85	82	環境保護	41	48
助成金	41	42	文化・芸術・スポーツ	194	274
その他	79	101	こども	84	127
計	936	1214	その他	110	107
			計	1165	1673

体裁	R1	H30
チラシ	768	997
ポスター	261	276
パンフレット他	110	148
計	1139	1421

(2) ニュースレター受入数内訳（平成31年4月～令和2年3月）

分野	R1	H30
ボランティア・市民活動支援	85	70
福祉・保健	35	32
まちづくり・地域安全	10	5
人権・国際協力	11	5
環境保護	7	6
文化・芸術・スポーツ	9	8
災害	5	4
子ども	4	5
その他	9	5
計	175	140

(3) 定期購読雑誌の受入数内訳

誌名	出版社	刊行頻度
ネットワーク	東京ボランティア・市民活動センター	隔月刊
ウォロ	大阪ボランティア協会	年6回
月間福祉	全国社会福祉協議会発行	月刊
ホームレスの仕事をつくり自立を 応援する「ビッグイシュー日本版」	ビッグイシュー日本発行	月2回

(4) 閲覧用図書・機関団体等報告書類の新規受入れタイトル

内容	R1	H30
ボランティア概論	1	1
市民活動支援、NPO 設立ガイド等	2	5
福祉関連	6	2
その他	3	5
計	12	14

分析・課題

○配架依頼、揭示依頼が多数あり、資料コーナーが雑多な感じになりやすいので、期限切れ資料の撤去やわかりやすく整理整頓を心掛け、見やすく手に取ってもらえるようにしていく。また、ボランティア・市民活動を身近に感じ、参加につながるきっかけとなるような興味を引くようなタイトルの閲覧用図書の購入を進める。

5 多様なメディア（媒体）と連携した情報提供

結果の概要

○J-COM株式会社（CATV）、調布エフエム株式会社、タウン誌（182ch）、地域ポータルサイト（ちょうふどっとこむ・ちょみっと）等のご協力を得て、多角的な情報提供に取り組んだ。

6 市民活動団体リストの発行

結果の概要

- 「令和元年・2年度市民活動団体リスト」の配布を行った。掲載団体数は420団体。
- 調布市生涯学習情報コーナーと協力し、市内のボランティア・市民活動団体（NPO法人含む）の紹介冊子を配布。
- 令和2年3月、在庫が不足したため追加で1000部作成した。

第3 ボランティア・NPO・市民活動団体、個人の活動支援

1 スペース・設備の貸出し

結果の概要

○市民活動団体の会議、作業、打ち合わせなどさまざまな目的に応じてスペースを貸出し、その運営管理を行った。

実績等

(1) 市民活動支援センター（国領）来館者及びはばたき利用状況

□来館者数(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
来館者数	6,384	2,633	3,746	8,005	3,322	3,618
一日平均	220	88	129	267	115	125
前年同月比	197%	81%	110%	149%	111%	101%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館者数	3,420	3,573	2,926	2,900	3,290	2,145
一日平均	114	123	108	107	122	72
前年同月比	97%	110%	104%	94%	126%	51%

□活動スペースはばたき・OAコーナー利用者数(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月間利用者	2,626	2,224	3,296	3,315	2,841	3,147
一日平均	91	74	114	111	98	109
前年同月比	96%	80%	111%	99%	109%	99%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月間利用者	2,945	3,177	2,537	2,386	2,892	1,733
一日平均	98	110	94	88	111	58
前年同月比	97%	112%	105%	93%	124%	68%

□年間来館者・利用者数総計と利用内訳

【総利用者数・相談件数】

	30年度	令和元年度	前年度比
来館者数(人)	41,339	45,962	111%
利用者数(人)	33,425	33,119	99%
相談件数(件)	519	563	108%

- 空調設備交換工事のため、5月に9日間はばたきの利用休止とした。
- 調布市議会議員選挙の期日前投票が4月の平日4日間行われた。
参議院議員選挙の期日前投票が7月の平日4日間行われた。
- 通常の第3月曜日に加え、あくろすの臨時休館日が8月と2月に1日ずつある。
- 3月は新型コロナウイルス感染拡大防止によりキャンセルが増え、著しく利用者が減少した。
- 3/28(土)～3/31(火)まで、新型コロナウイルス感染拡大防止の為にばたきを利用休止。

【利用者数内訳】

	平成30年度	令和元年度	前年度比
活動、会議、打ち合わせ	23,831人	22,662人	95%
パソコン利用	2,562人	2,440人	95%
学習	6,791人	7,711人	114%
印刷機	241人	306人	127%
合計	33,425人	33,119人	99%
展示(壁)	14件	12件	86%
展示(その他の場所)	0件	1件	—
合計	14件	13件	93%

※展示(その他の場所)は30年度が0件の為、前年度比率は算出できず空白とします。

結果の概要

- 壁面展示が多かったが、えんがわで調布市文化生涯学習課の企画メッセージボード巡回展を行った。
- ちょみっと専用のタブレット端末を設置し、ちょみっとの普及啓発に努めている。

分析・課題

- 活動スペースについては、団体・個人とも調布市内だけでなく、他市からの恒常的な利用も多く、便利であると感謝されている。
- 壁面展示スペースの活用については、休館日をしっかり考慮する必要がある。
- パソコンコーナーについては、市民活動・ボランティア活動の支援という本来の目的以外の活用が多いが、現状の対応で特に課題は感じられない。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止により、3月は著しく利用者が減少した。

(2) ボランティアコーナー(ランチ)来所者数

拠 点	来所者数	
	人数	一日平均
小島町コーナー(週5日)	*ボランティア活動室利用者数 3,983人	13.8人

菊野台コーナー(週3日)	1,520人	24.5人
富士見コーナー(週3日) 11月～3月まで改修工事のため休館	3,306人	39.3人
染地コーナー(週5日)	7,207人	28.9人
緑ヶ丘コーナー(週3日)	4,415人	30.6人
西部コーナー(週5日)	3,239人	14.1人
合計	23,670人	25.2人

(3) ロッカー、メールボックス、倉庫2スペースの貸し出し(国領)

結果の概要

- 活動室内に設置されているロッカー、メールボックス、倉庫2の空きスペースを希望する市民活動団体に貸出を行い、その運営管理を行った。
- ロッカーの利用率は高いが、メールBOXは利用率が低い。有効活用するための幅広い検討が必要である。《利用率；ロッカー 104/108 メールBOX 39/168 2020/2/29 現在》
- 倉庫2スペースは、ほぼ満杯状態となっている。

実績等

内 容	R1年度	H30年度
ロッカー利用団体	104団体	99団体
メールボックス利用団体	39団体	37団体
倉庫2空きスペース利用団体	16団体	15団体

※令和2年2月末日の実績 3月から翌年度の更新が始まるため。

分析・課題

- ロッカーの利用率は高いが、メールBOXは利用率が低い。メールBOXエリアの縮小し、追加利用の希望の多いロッカーへの置き換えを検討したい。
- ロッカー、倉庫2スペースともに、利用状況をチェックし、未使用で長期間保管スペースとなっている団体への連絡を行い、有効活用していきたい。

2 ボランティア保険・行事保険の加入受付

結果の概要

- ボランティア保険への加入促進の呼びかけと加入手続きの事務を取り扱った。

実績等

ボランティア保険加入者数(通年保険・受付随時)		4,738人	
行事保険加入件数	日帰り行事	301件	8,345人
	宿泊行事	12件	175人

3 無線 LAN スポット運営（小島町）（国領）

平成16年度よりセンターの利用価値向上、情報分野からの市民活動支援を目的として無線 LAN のポイントを調布市総合福祉センター2階フロアに設置し、活動室、会議室、交流スペースなど2階一帯において、各自持ち込みのパソコンでインターネット接続が可能な環境の設定を行っている。

あくろす2階・3階共通のフリーWifi 導入に伴い、SSID(Chofu-Free-WiFi-Plus01)に無線 LAN を利用している。

分析・課題

○はばたきにて、ペーパーレスでの会議やweb 上でのミーティング及び資料作成をする市民活動団体が増えているため有効活用されている。しかし、1時間で切れる設定で使いにくいという意見もある。

4 電話対応代行サービス（国領）

結果の概要

○市民活動団体が実施する活動やイベント・講座等に関する問い合わせ・受付の支援サービスとして、電話対応代行サービスを実施した。

実績等

利用料金	一件につき、月額1,000円（サポーター会員は800円）	
利用件数	延べ44件（8団体）	前年：延べ44件（10団体）
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事・講座・講演会・コンサート等への内容照会および参加申込受付代行 ・ 団体の活動に関する問合せへの応答代行 	

分析・課題

- 企画や受付の体制が整っていない団体のサポートの役割として機能している。
- 定期的に利用している団体の中には基盤が整っているところもあり、本サービスを使わずに自立していく支援の検討も必要である。
- 各団体が行う広報活動との調整に苦慮する場面もある。また、休館日の対応の周知も必要。

5 印刷機の設置・運用

結果の概要

○利用料 マスター1枚につき50円、印刷枚数500枚につき100円の費用徴収あり。

実績等

利用実績	平成30年度	令和元年度
印刷機利用者数	194	306
印刷講習受講人数（新規利用者）	24	29

分析・課題

○印刷機は現状、センター入り口わきのスペースに設置されているが、場所の試験等が必要。

6 市民活動支援に関する講座・相談会

結果の概要

- 13の講座を実施した。「えんがわカフェ」は、運営委員をはじめ市民の協力を得て実施した。
- 災害ボランティア養成連続講座の実施（第2部のP63参照）
- 地域人材育成講座は、協働。推進課との連携事業

実績等

日時	開催名	参加者数	講師	会費	場所
6月29日（土） 午前8時から10時	えんがわカフェ#1 ごみ拾い&しっかり朝食でエンジョイ朝時間！	13人	「グッドモーニング調布！」 代表 児島秀樹氏	無料	国領駅前広場 → Café & PastaCRESSON
7月31日（水） 午後7時から8時30分	えんがわカフェ#2 「夜カフェでぶっちゃけ！ その活動どうやってスタートさせたの？」	18人	「手編みの鳥の巣を届ける会」 代表 早水 悠登氏 「東京ボランティア・市民活動センター」 相談員 安井 忍氏	500円	市民活動支援センター
8月23日（金） 午後4時から5時	えんがわカフェ#3 自分の成長エネルギーになるからボランティアはおもしろい！（第1回）	53人	「ちょうふチャリティーウォーク実行委員会」 実行委員長 水田征吾氏	無料	市民活動支援センター
8月28日（水） 午後5時から6時	えんがわカフェ#3 自分の成長エネルギーになるからボランティアはおもしろ	50人	「ちょうふチャリティーウォーク実行委員会」 実行委員長	無料	市民活動支援センター

第2部 ボランティア・市民活動推進

	い！（第2回）		水田征吾 氏		
9月19日（木） 午後7時から9時	えんがわカフェ#4 チラシづくりの相談会	9人	「調布市市民活動支援センター」 前運営委員 三澤美玲 氏	500円	市民活動支援センター
10月3日（木） 午後7時から9時	災害ボランティア養成連続講座2019 第1回	21人	「AARJapan（認定NPO法人難民を助ける会）」 代表 野際紗綾子 氏	無料	市民活動支援センター
10月5日（土） 午前8時から11時	えんがわカフェ#5 ごみ拾い&しっかり朝食でエンジョイ朝時間！	15人	「グッドモーニング調布！」 代表 児島秀樹 氏	無料	国領駅前広場 → Café & PastaCRESSON
10月30日（水） 午後7時から9時	災害ボランティア養成連続講座2019 第2回	16人	「NPO法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし」 理事 神元幸津江 氏	無料	市民活動支援センター
11月10日（日） 午前9時から12時	災害ボランティア養成連続講座2019 第3回	台風19号の影響のため中止	市民活動支援センター職員	無料	多摩川 河川敷 総合防災 訓練会場
11月21日（木） 午後7時30分から9時	えんがわカフェ#6 こども食堂ってなに？～「食」でつながる私たち～	25人	「こくりょう子ども食堂わいわい」 代表 嶋田浩一氏 「Global 調布！」 代表 村上むつ子 氏	無料	市民活動支援センター
12月4日（水） 午後1時から3時	えんがわカフェ#7 人生100年時代についておしゃべりしよう	5人	「調布市市民活動支援センター運営委員会」副委員長 横山由紀 氏 「調布市市民活動支援センター」 前運営委員 三澤美玲 氏	200円	市民活動支援センター

12月10日(火) 午後7時から9時	地域人材育成講座 明日から実践！みんなで決める効果的な会議の方法 第1回	20人	「一般財団法人世田谷トラストまちづくり」 田中瑞穂氏 山田翔太氏	500円	調布市市民プラザあくろす3階ホール
12月17日(火) 午後7時から9時	地域人材育成講座 明日から実践！みんなで決める効果的な会議の方法 第2回	17人	「一般財団法人世田谷トラストまちづくり」 田中瑞穂氏 山田翔太氏	500円	調布市市民プラザあくろす3階ホール
合計	13回	262人			

分析・課題

- えんがわカフェは市民活動支援センター運営委員会を中心に企画運営し、6月からスタート。
「市民活動支援センターが月1回、コミュニティカフェになる」をコンセプトに毎回様々な角度からテーマを掲げ実施したことで、センターに初めて足を運んだ方、新しいつながりやアイデアを求める団体同士のパートナーシップを強化するきっかけづくりの機会となった。
- 災害ボランティア養成連続講座は台風等各地の被害状況が大きくなる中で、参加者の関心・意識も高い講座内容となった。3回目は台風19号による影響の為に開催が中止となった。
- 地域人材育成講座は効率的に会議を進める為の手法を学ぶ実践の機会として、2回連続の講座として行った。地域包括支援センター、地区協議会、NPO法人、えんがわファンド助成先団体等の方々の参加があった。実践体験ができるプログラムが中心で参加者から好評を得た。

7 不要になった入れ歯、使用済み切手、外国コイン類の回収

結果の概要

- 特定非営利活動法人日本入れ歯リサイクル協会が実施している入れ歯リサイクル活動に協力し、調布市総合福祉センター1階に回収ボックスを設置。
この活動によって得られる益金の一部(40%)は当協議会に配分され、えんがわファンドの原資として活用している。
- 使用済み切手、カード類の回収のため、市役所、地域福祉センター、郵便局等に回収箱を設置。
その他、企業、老人クラブ、幼稚園、小学校、市民からの寄付も募った。
- 「回収しています」のチラシを作成し、広く市民に、「何のために、何を集めているのか」をお知らせするチラシを配布。
また、1月以降は、書き損じはがきを中心に、行楽シーズンには、換金できなかった外国コインをメインに、そのタイミングに合わせ、回収していることを広報した。
- 回収された切手類やカード類は、ボランティア団体の協力により整理されているが、今年度は、国領、緑ヶ丘で、新たな団体が立ち上がった。

○入れ歯の配分金に加え、整理された切手や回収された書き損じはがき、外国コイン等を換金し、その全額は、「えんがわファンド」の資金として活用される。

実績等

種 類	売上金額(円)	換 金 日
入れ歯リサイクル	63,224	平成 31 年 4 月 17 日
通常切手・記念切手類	37,200	令和元年 10 月 9 日
書き損じはがき	21,110	
使用済みカード	100	
外国コイン	34,100	
その他	0	
通常切手・記念切手類	20,500	令和 2 年 3 月 16 日
書き損じはがき	60,949	
使用済みカード	0	
外国コイン	18,310	
その他	500	
合 計 金 額	255,993	

8 市民活動助成事業「えんがわファンド」の実施

結果の概要

- 地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する事業。(平成18年度より実施)
- 幅広い分野のボランティア・市民活動や児童・生徒の体験活動・地域活動を支援すること、また本助成事業を通して、団体同士、あるいはセンターと団体が相互に交流し、協力しあう関係を構築することを目的に実施した。
- 市民ファンドとして、市民や企業等からいただいた寄付やサポーター会費、ちょうふチャリティーウォーク参加費、使用済み切手・カード等の販売、入れ歯のリサイクルによる益金等、様々な資金を活用して運用した。
- えんがわファンドをきっかけに、助成先団体同士が活動を協働実施する機会も生まれた。

実績等

(1) えんがわファンド選考委員会

① 選考委員会の開催状況

開催日	5月28日(火) 午後7時～9時
会場	市民活動支援センター
内容	応募団体15団体を書類審査により15団体に助成決定

② えんがわファンド選考委員 ◎…選考委員長

北村 真	ちょうふチャリティーウォーク実行委員
旗野 貞夫	八王子市市民活動支援センターNPO さぽーと802
◎壽賀 一仁	市民活動支援センター運営委員長
新國 政和	市民活動支援センター運営委員
高木 直	市民活動支援センター長

(2) 助成先団体 計15団体 助成総額979,646円 ※ (申請順)

【2019年度えんがわファンド助成先団体一覧】

No	団体名	助成額(円)	助成内容
1	ハッピーこども食堂実行委員会	94,177	布田小学校エリアの地域住民・教員と連携した児童の見守り、親子の共食体験、食育交流の場の提供を目的としたこども食堂における調理器具購入費
2	NPO法人調布子育てを結ぶこんぺいとうの会 こんぺいとう子育てひろば	45,000	地域で子育てする親子を身近な地域で応援する「子育てひろば」実施のための会場費、教材費
3	特定非営利活動法人子どもの未来を紡ぐ会	32,820	さかのぼり学習の必要な児童・生徒等を対象の学習支援事業「学習教室 ミライエ」リーフレット製作費、印刷費
4	調布デイジー	79,508	発達障がいのある児童・生徒・保護者・関わる大人を対象に、義務教育期間中・後の進路に関する情報や経験談を伝える講演会の講師料、会場費、広報費
5	調布市民健康づくり始める会	50,000	調布市民のための体操を取り入れたうたごえサロンにおけるプロジェクター購入費
6	NPO法人調和 SHC 倶楽部	90,000	発達障がいのある子どもの理解と支援の仕方を保護者、学校関係者、NPOスタッフが学び市民・利用者へ還元する為の連続講座における講師料

7	富士見あおぞら子ども食堂	46,423	貧困家庭や一人で食事する子ども達の食事支援を目的とした地域交流として実施する子ども食堂開設備品（備品購入費、調理器具購入費）
8	あおい発達障害当事者会	100,000	当事者会活動で蓄積されたりカバリーストーリー及び当事者が知っておくと得する情報をまとめた冊子「私たちはこうして生き抜いてきた（精神・発達障害編）」の製作費
9	しばさき彩ステーション （申請時名称：ソーシャルワーク・ステーション柴崎）	95,372	空き店舗を活用し、住民主体で医療・福祉専門職と連携して運営する地域の常設ステーション開設費用（備品購入費、広報費、セミナー講師料）
10	健康歌声サロンの会	40,000	交流による一体感と脳トレ・歌体操による心身活性化を通して健康寿命を延ばすことを目的に実施する歌声サロン交流会の会場費、広報費、講師料
11	上ノ原迷い人ネットワーク	43,556	認知症になっても安心して外出できるまちづくりを目指して実施する「道に迷ったお年よりをみんなで守ろう！ In 上ノ原」（講義、寸劇、見守り訓練）の広報費、保険料、消耗品費、通信費等
12	手作り市	83,790	手作りを通して人と人の輪を広げ、交流の場とすることを目的に実施するイベント（手作り物展示販売、ワークショップ、子供の先生体験）運営における広報費、ウェブサイト制作運営費
13	親子で歌い継ぐ日本の歌百選を歌い伝え継ぐ会	30,000	調布市柴崎で誕生した名曲「今日の日はやさようなら」を調布の新たなシンボルとするために設置されたモニュメントを市民に啓発することを目的としたチラシ作成費
14	西部うたごえ広場の会	100,000	高齢者の孤立化防止と集いの場づくりを目的に音楽療法の技法を取り入れて実施する歌声広場のプロジェクター購入費、楽器購入費、歌集印刷費
15	ちいきち かに山冒険くらぶ	49,000	親子が安心して参加できる機会、世代を超えたつながり作り、生きる知恵の伝承、共同作業を通じた新しいコミュニティづくりを目的とした野遊びの場提供のためのスタ

			スタッフ育成費、講師料、備品購入費
	合 計	979,646	

※助成対象期間が令和元年6月1日～令和2年5月31日のため、助成総額は令和2年3月31日現在の金額。最終の助成総額は6月中に確定する予定。

(3) 2019年度えんがわファンド交流会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期

(4) 財源（寄付金等）

実績等

令和元年度に「えんがわファンド」へいただいた寄付金等は以下のとおり。

提供者・概要 ※敬称略	R1 年度	H30 年度
サポーター会費	363,000 円	327,000 円
ちょうふチャリティーウォーク実行委員会	388,712 円	271,554 円
企業訪問（市民活動支援センター運営委員会）	80,000 円	0 円
指定寄附	105,216 円	61,449 円
リサイクル益金 （使用済み切手・カード・外国コイン・入れ歯）	255,993 円	157,769 円
えんがわカフェ	1,000 円	0 円
えんがわフェスタ 2019 募金	0 円	28,981 円
市民活動支援センター募金箱	0 円	12,944 円
講演等謝金（一部）		140,303 円
合計	1,193,921 円	1,000,000 円

分析・課題

○一団体上限10万円という他助成金と比較して小規模な助成金であるが、調布に根ざした活動を行っている団体を応援する身近な助成金として、助成を受けた15団体の内7団体が新規団体であった。

○ちょうふチャリティーウォークへの参加やスタッフのコーディネーションにより、助成先団体同士の出会い・交流が活発になっている。団体同士がコラボレーションした新たな取り組みが地域で生まれている。

○市民活動支援センター運営委員会で取り組む4つのテーマの一つに「えんがわファンドで市民活動支援と寄付文化の醸成を！」を掲げた。運営委員会主体で企業訪問を実施したことで、サポーター会費及び指定寄附の増額につながった。

○えんがわファンド交流会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期。成果報告及び団体同士の交流の機会づくりの方法について検討が必要。

第4 ボランティア・NPO・市民活動コーディネート

1 相談対応、ボランティア・市民活動支援

結果の概要

○相談対応、活動支援、活動紹介等コーディネートをを行い市民の主体的な活動を支援した。

実績等

(1) ボランティア団体登録状況

○情報登録団体 420団体（市民活動団体リスト掲載数）

○小島町コーナー登録団体 132団体

○ボランティア活動室の利用、もしくは印刷室の利用を希望する団体、または、総合福祉センターの登録を希望する福祉団体が、小島町コーナーに団体登録をしている。

ホームページから登録できる、情報登録団体と重複している団体も多い。

総合福祉センターの登録団体になることや、印刷室の利用を目的として登録を希望する団体が多いため、ボランティア活動室を利用している団体の数は、30団体にも満たない。

(2) ボランティア活動状況

保険加入者数 4,738人

○個人で活動するボランティアは、登録制度をとっていない。

そのため、ボランティアの活動状況を把握するには、ボランティア保険の加入人数が実態に近いと思われる。この中には、施設等でボランティアを長年継続して活動されている方など、コーディネート件数に含まれないボランティアも入っている。1回のみ活動あるいはサマーボランティアなど短期間限定的な活動であっても保険へ加入するのでスポットで活動した方もカウント可能。ただし、必ずしも調布で加入した方が調布で活動するとは限らず若干の相違が生じると思われるが、反対に調布以外で保険加入した方が調布で活動される場合もあり、またそのようなケースは少数であるため誤差の範囲内であると考えたと最も実態に近い数字といえる。

(3) 相談業務及びコーディネート事業

結果の概要

○台風19号の被害で災害ボランティア活動を行い登録制にした。82名の方が登録。

○センター（国領）では、NPO・市民活動団体の立ち上げ及びスタートアップの相談、個人においては市民活動への参加に関する相談が多かった。

○調布市内では近年、定員10名程度の規模の小さなデイサービスが多くなった。

小規模ゆえに、音楽ボランティアに必要なキーボードや音響などの設備がなかったり、慰問できる人数が、2～3名と制限されたりするので、慰問できる団体、披露できる内容が限られてしまうことが多い。

また、演奏などの音楽関係のボランティア団体を一度紹介すると、施設から依頼されて、同じ

団体が、毎月定期的に慰問する、という傾向が増えてきている。

○新規の高齢者施設は、日中の余暇活動に、どんなプログラムを企画すればいいか、などの相談を受けることがある。その場合、ボランティアで協力できることなど、提案している。

○高齢者施設、障がい者施設など、職員の入れ替わりが頻繁な施設が多く、その場合、ボランティアを紹介しても、受入れ態勢が整っていないため、ボランティアが長く継続して活動することが難しくなっている。

また、頻繁に相談に来ていた施設も、担当者が変わることで、連絡がぱったり途絶えてしまうことも多い。

○個人からの依頼で多いのは、やはり送迎ボランティアの相談になる。

障がい児の放課後活動「放課後等デイサービス」で、送迎車両の運行を行っていない施設に通う子どもの送迎や、通級の時の送迎、また朝の登校時の付き添いなど、場面は様々である。

実績等

① 相談件数

拠点	小島町 コーナー	菊野台 コーナー	富士見 コーナー	染地 コーナー	緑ヶ丘 コーナー	西部 コーナー	国領 センター	合計
相談 件数	3,840件	155件	247件	676件	487件	234件	(563)	5,639件 (6,202件)

※合計は市民活動支援センター窓口を除く

分析・課題

○医療的なケアを行うボランティアについて、自身の経験を生かしたい、または共感ができるという動機で参加するケースが多くみられた。

○ボランティア活動について、自身の精神的なケアおよび回復への効果を期待するという声があった。

○既存のセンター事業の枠組みにとらわれず、相談ニーズに応じて組み立てを変えたり、個別対応をするなどのコーディネートが必要。

○障がい児の送迎活動は、「放課後等デイサービス」利用時のほか、朝の登校時の見守り、通級の送迎など、いろいろな場面での依頼に対応した。

○特別支援学校に通う学生は、高校生になると、調布から府中にある特別支援学校に転校する。放課後等児童デイサービスへも、府中から通うことになるため、移動距離が長くなり、ボランティアでの支援が難しくなっている。調布市では、通学支援を認めていないため、移動支援のサービスは利用できず、保護者の負担増に対し、どう支援するかが課題。

○ボランティア活動を希望する相談件数が、毎年減り続ける中、支援を必要としている方からの相談は多い。ボランティアガイダンスの参加者も以前に比べ減少してきている。

様々なアンケートでは、「機会があればボランティア活動に参加したい」との気持ちを持つ人は多い、という結果が出ているので、「きっかけ」となるような仕掛けづくりなど、工夫することの必要性を感じる。

○長く活動を続けている団体のメンバーが高齢化してきている。またメンバーも減りつつある中、

同じ思いで活動できる新メンバーの確保は難しく、活動休止や解散を検討する団体が出てきている。

2 ボランティアガイダンス（ボランティア入門講座）

（1）ボランティアガイダンス

結果の概要

○市民の社会参加を促しこれからの市民活動を担う人材を発掘することを目的に、はじめてボランティア・市民活動に参加する方やボランティア・市民活動について知りたいという方を対象に、ボランティアガイダンスをセンター及び各ランチで開催した。

実績等

拠 点	開催日	参加者数	スタッフ	事業協力者
小島町コーナー	4月25日（木）	6人	2人	0人
	9月18日（水）	3人	2人	0人
富士見コーナー	7月27日（土）	3人	2人	0人
菊野台コーナー	5月18日（土）	0人	1人	0人
	8月2日（金）	2人	3人	4人
	1月28日（火）	3人	1人	0人
染地コーナー	6月11日（火）	3人	1人	0人
	2月1日（火）	1人	1人	1人
緑ヶ丘コーナー	10月26日（土）	1人	1人	1人
西部コーナー	11月16日（土）	2人	2人	0人
	3月13日（金）	中止		
市民活動支援センター（国領）	12月5日（木）	1人	2人	0人

分析・課題

（小島町コーナー）

○参加者が減少傾向にあったので、駅前の立地を生かし、総合福祉センター1階の窓に、ポスターを掲示するなど、館内に来所しない人へ向けた広報にも心がけた。

○ガイダンスの参加者に、開催を何で知ったか、確認するようにした。

その結果、8割ほどは市報を見て参加していたので、参加者を募る場合、市報による広報は、有効だと感じた。

○「市報」、「ふくしの窓」などの広報誌が発行される日を考慮し、ガイダンスの日程を設定した。

（菊野台コーナー）

○深大寺東町のスーパートップに、コミュニティスペース「トップふれ愛広場」が開設されたことにより、今まで社会福祉協議会、地域包括支援センターの拠点が近くにない地域で、様々な活動の足掛かりとなるよう「至誠しばさき」に協力を仰ぎ、初めて菊野台コーナー以外で出張ボランティアガイダンスを行った。

(富士見コーナー)

○3名のうち2名はボランティア経験豊富で紹介後すぐに活動開始、1名は調布へ転入したばかりの方で、まずは地域のサークル活動を紹介、仲間づくりの支援を行った。

(緑ヶ丘コーナー)

○天候不順の中、一人が参加され、土日の活動希望のため、地域のコーナーを訪ねていただくようご案内した。

(西部コーナー)

○ご夫妻で参加。現在市の施設にてボランティア活動中。高齢者施設にて囲碁、将棋の相手をするボランティアをご希望。受け入れている高齢者施設を数か所ご紹介した。

○平日ご希望の方には別の日に対応。高齢者施設の活動に興味があるとのこと。ガイダンス直後に体調を崩され2月に回復したと連絡あり。施設内ボランティア活動を見学する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため施設がボランティア活動を中止。再開後、連絡することになっている。

(染地コーナー)

○参加された2名はご自分の資格、得意分野を活かした活動を探しての参加だったが、既存の活動を紹介するに至らなかった。希望する活動を考慮しながら、目的に近い方々や参加者の活動を受け入れてくれそうな団体を紹介した。

(国領センター)

○広報の効果が少なかったのか、参加者が少なかった。

参加者のニーズの聞き取りに努め、多様な活動の紹介ができたと思われる。

第5 ボランティア・NPO・市民活動団体、企業や行政との協働

1 やあやあドリームオールスターズ（YDAS）

「第17回こどもあそび博覧会In北ノ台小」

結果の概要

- 調布市内外で活動する市民活動団体を中心となり、様々な体験型・参加型のブースを設け、こどもたちが地域の中でたくさんの人とふれあい、学びや気づきを得ることができた。
- 参加した市民活動団体間だけでなく、関わってくださった個人の方との交流も深めることができ、つながりが生まれた。

実績等

日時	令和元年9月28日 10:00～15:00		
会場	調布市立北ノ台小学校 校庭及び体育館、校舎内の一部		
主催	やあやあドリームオールスターズ2019実行委員会		
共催	やあやあネットワーク、社会福祉法人調布市社会福祉協議会	協賛	調布市
協力	調布市立北ノ台小学校、北ノ台小PTA、北ノ台小学校開放委員会、健全育成北ノ台地区、北ノ台地区協議会	後援	調布市教育委員会
参加者数	こども参加者 約237人 大人来場者数 約200人 計 約437人		

(1) 参加団体

参加団体：22団体

レッツおりがみ、調布市サウディアラビア友好会、フェリースミナー、テニス学校、チーム深大寺浄水所、調布謎倶楽部、キャラワークスジャパン、NPO法人ちょうふこどもネット（CAPS）、たま川お手玉の会、ちょうふネットテレビ、調布わいわいサロン、バルーンアート、国際ゲーム開発者協会、神代植物公園植物多様性センター、復興の未来へ行こう！若者プロジェクト、老人クラブ連合会、MECP事務局、健全育成北ノ台地区委員会、アクティス、染地剣道会、キャラワークスジャパン、電通大おもちゃの病院

(2) 実行委員会開催状況

- 事務局会議 … 3回
- 実行委員会 … 4回

分析・課題

- 開催校の決定が遅くなり、地域の方との連携が不十分であった。前年度のうちの開催校の決定が望ましい。
- 予想より来場者が少なく、広報や周知についての課題が残っている。児童のみではなく、自治会を通して地域にアプローチしていく必要性を感じた。

○来場者に会場の導線の説明がなかったことで、参加者カードを受け取れない、または開催場所がわからずに帰ってしまうというケースがあった。チラシ及びポスターにて会場の案内を明記しておく必要があった。

2 ちょうふチャリティーウォーク

結果の概要

- 寄付文化の醸成、市内企業・行政・NPOの協働の機会づくり、団体のネットワーク、地域活動参加のづくりを目的に2008年の初回から数えて第11回目の実施。企画、運営を実行委員会方式とし、地域企業・団体との協働により実施した。
- 実行委員長及び副委員長の多くが新しくなり、目的・ターゲット・手法等を協議した結果、企画をリニューアルし、本イベント1回、プレイベント3回を実施した。
- イベント参加者数が前年の468名から35名増えた。
- チャリティー金額が前年から128,808円増えた。過去最高額となった。
- 実行委員会の情報共有ツールとしてSlackを導入。

実績等

(1) ちょうふチャリティーウォークハロウィーンダンスフェス

日時	10月27日(日)午後12時30分～午後5時30分		
コース・会場	<p>●ロングコース5.3km スタート会場〔鬼太郎ひろば〕→サレジオ神学院→深大寺→深大にぎわいの里→布多天神社→野村證券調布支店→調布駅前〔キッチンカーフィノン〕→ぬくもり society〔セラピューティックカフェ〕→千代富 清風堂→ゴール会場〔国領駅前 特設屋外ディスコ〕</p> <p>●ショートコース3.6km スタート会場〔鬼太郎ひろば〕→布多天神社→野村證券 調布支店→調布駅前〔キッチンカーフィノン〕→ぬくもり society〔セラピューティックカフェ〕→千代富 清風堂→ゴール会場〔国領駅前 特設屋外ディスコ〕</p>		
参加者	503人 (スタート受付320人) (ダンスフェス受付183人)	参加費	大人 1,000円 高校生以下 100円
当日スタッフ	80人		
主催	ちょうふチャリティーウォーク実行委員会		
共催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会		
後援	調布市、調布市教育委員会、公益社団法人調布市体育協会		
チャリティー金額	381,250円(えんがわファンドへ)		

(2) プレイベント

名 称	ハロウィーンゾンビメイク研究
日 時	10月11日(金) 午後7時30分～午後9時
内 容	ハロウィーンダンスフェス当日に仮装を楽しむためのレクチャー
主 催	ちょうふチャリティーウォーク実行委員会
チャリティー金額	2,000円(えんがわファンドへ)

名 称	夜のほろよいウォーク
日 時	10月16日(水) 午後7時30分～午後9時30分
内 容	ちょうふチャリティーウォークハロウィーンダンスフェスのショートコースを歩き、途中飲食店に立ち寄り寄付について語る交流会
主 催	ちょうふチャリティーウォーク実行委員会
チャリティー金額	9,000円(えんがわファンドへ)

名 称	ハロウィーングッズを作ろう!
日 時	10月22日(火・祝) 午前10時～午後1時
内 容	えんがわファンド助成先団体「手作り市」によるハロウィーングッズ作りのワークショップ
主 催	ちょうふチャリティーウォーク実行委員会
チャリティー金額	2,112円(えんがわファンドへ)

分析・課題

- ちょうふチャリティーウォークハロウィーンダンスフェスのアンケート結果によると、チェックポイントによって、満足度に大きな差異が生じている。単にスタンプを押すだけでなく、何か「賞える・体験できる・観賞できる」ことが、満足度に繋がる為、飽きさせない工夫が必要。
- プレイベントを3回実施したことからも、実行委員やえんがわファンド助成先団体が新しいアイデアを企画実施するチャレンジの場となっており、かつ今まで市民活動に参加したことのない層の市民と出会うチャンスとまっている。
- えんがわファンド助成先団体や市民活動団体がチャリティーウォーク実行委員会に参加したことをきっかけに、自団体の活動において実行委員会と連携したりサポートを受けたり、その後の展開につながっている。

3 ちょうふこども協力隊

結果の概要

- 前年度まで市民活動支援センター運営委員会が企画運営をしえんがわフェスタとして実施した「チャレンジ! ちょうふこども協力隊」の運営を担う市民活動団体を立ち上げ、団

体名を「ちょうふこども協力隊」とした。メンバーは主として市民活動支援センター運営委員卒業生等の有志で構成。

- 「ちょうふこども協力隊」の今年度の主な取り組みは二点。一点目は「チャレンジ！ちょうふこども協力隊実行委員会」を立ち上げ、前年度参加者だった保護者及びボランティアを実行委員に招き市民活動の担い手となっていたいただき、イベントの企画運営に携わる機会をつくった。二点目は団体の自立した組織運営及び「チャレンジ！ちょうふこども協力隊」以外のプログラム企画について検討をおこなった。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため「チャレンジ！ちょうふこども協力隊」は延期とした。

実績等

(1) 会議

内 容	事務局会議	実施回数	9回
メンバー	ちょうふこども協力隊役員		

内 容	全体会議	実施回数	10回
メンバー	ちょうふこども協力隊実行委員会 17名 (前年イベント参加保護者6名、前年イベントボランティア3名、センター運営委員2名、ちょうふこども協力隊役員6名)		

(2) プログラム

名称	チャレンジ！ちょうふこども協力隊		
開催日	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 (予定：令和2年2月24日(月・祝)午前10時～午後3時)		
会場	市民活動支援センター、京王線国領駅改札前、 市民プラザあくろす 2階 会議室1及び3階 ホール・調理室		
参加者数	中止		
内 容	10:00入隊式 10:30班ごとに4つのミッションにチャレンジ！ 12:40ランチタイム 【子ども】手帳に気づいたことをまとめ、食後に5つめのミッションにチャレンジ 【大人】ミッション協力団体の話を聞きグループディスカッション 14:30修了式		
協 力	協力団体 4団体(16人)、企業 2事業所(照明・デザイン)、ボランティア17人		
主 催	ちょうふこども協力隊実行委員会	共催	市民活動支援センター

分析・課題

- 企画にあたって実行委員会及び事務局会議を定期開催したことで、自立した団体運営へ踏み出すことはできた。
- ちょうふこども協力隊と市民活動支援センターとの関わりを整理する必要がある。ちょうふこ

ども協力隊が市民ならではの柔軟な発想で自立した組織運営ができるよう、センターならではの関わりを大事にしつつもスタッフが事務局メンバーに入るかどうか等具体的な連携について協議を次年度予定している。

- 前年度までイベント参加者だった保護者41名の15%にあたる6名が実行委員会に参加。共に市民活動を行う担い手の掘り起こしをすることができた。小学生の子どもがいる忙しい世代が会議やイベントに参加しやすい、持続可能な団体運営を検討する必要がある。

4 調布市市民プラザあくろすでの連携

結果の概要

- 調布市市民プラザあくろすにある、男女共同参画推進センター、産業労働支援センター、指定管理者(株)セイウンと連携し、あくろす全体での調整を行った。

実績等

- あくろすの3センターと指定管理者で構成される「あくろす連絡会議」（毎月1回）に出席し、情報交換を行った。会議とは別に必要に応じて、情報交換を行った。
- あくろす15周年記念事業の企画会議は、「あくろす連絡会議」の開催と合わせて行われ、まち活フェスタとの調整を行った。
- あくろす並びに商業施設「コクティール」と合同で、2か月に1回、施設周囲の清掃活動に参加、および年2回の防災訓練に参加を行った。
- 4月から5月にかけて、空調設備の更新工事が行われ、工事日程や工事箇所、安全管理等について指定管理者および工事業者と調整を行った。
- 4月の市議会議員選挙、7月の参議院議員選挙における期日前投票所の設置について、指定管理者および選挙管理委員会と調整を行った。
- 3月に入り、新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応を協議し、3/28（土）から、はばたきスペース等の利用休止を決めた。

分析・課題

- 市民活動支援センターも開設から15年が経過し、施設の老朽化が目立つようになってきた。はばたきスペースの椅子の更新などを含め、協議を進めたい。

5 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センターとの連携

結果の概要

- ブロック内の他地区センターと事業共催することにより、連携強化を図ると同時に、業務や経費を分担することで効率的で多彩な事業を展開することを目的として平成12年度から実施。
- 各センター共通の課題である「災害」をテーマに連絡会で企画検討。食物アレルギーをテーマに活動する団体、こどもの食や居場所をテーマとした団体にも出展してもらい、「炊き出し」

を通してマイノリティな方の理解を深め共に避難所生活を送れることを意図して企画した。

(イベント自体は中止)

実績等

第2部のP64参照

6 その他

結果の概要

○様々な団体の活動に参加・協力をし、連携を深めた。

実績等

日時	団体名	内容
5月17日(金) 5月25日(土) 5月26日(日) 6月6日(木)	東京慈恵会医科大学医学部看護学 科	1年生前期授業「ボランティア論」の 講義及び市民活動体験先コーディネー ト
1月19日(日)	調布さくらウィンドオーケストラ	定期演奏会

第6 人材育成、学習支援

1 出前ボランティア講座の実施

結果の概要

○小・中学校で進められている「総合的な学習の時間」、高等学校での「人間と社会」、また市役所職員の研修等に対応した。

実績等

出前回数	36回	出前先	小学校	25回
受講生	延べ3,344人		中学校	3回
派遣スタッフ	延べ214人		高等学校	5回
			関係機関	3回
開催講座数	143講座 (内訳：手話39、視覚障がい者ガイド40、点字38、車いす26)			

分析・課題

○今年度は、市内20校ある小学校の内15校(75%)から依頼を受けた。

○小学4年生国語の単元『「便利」ということ』の中で、「いろいろな立場の人にとっての便利」について考える調べ学習の一環として、体験講座を依頼するケースが多い。

そのため4年生からの依頼が多く、その時期も単元を学習する2学期頃に集中する傾向にある。

○第一小学校内にある「きこえの教室」では、そこに通う児童対象の講座も実施したが、事前に、「きこえの教室」担当の教員を対象とした出前講座も実施した。

○今年度初めて、公民館が主催する「市民向け講座」として、手話の出前講座を実施した。

2 都立高等学校における教育活動支援業務の実施

結果の概要

○平成19年度からは、教科「奉仕」の授業の一環として、また平成28年度からは、それを発展的に統合した新教科「人間と社会」という必修教科の授業の中で、この出前講座を実施している。

実績等

(1) 実施内容

① 手話体験

- ・コミュニケーション方法について
- ・聴覚障がい者のお話
- ・ジェスチャーから手話での表現を学習
- ・手話でのあいさつ、会話の練習

- ・日常生活用具の紹介
- ② 点字体験
 - ・点字の打ち方、読み方 ・視覚障がい者のお話 ・日常生活用具の紹介
- ③ 視覚障がい者ガイドヘルプ体験
 - ・ガイドヘルプの方法について ・視覚障がい者のお話 ・日常生活用具の紹介
- ④ 車いす体験
 - ・車いすの自走体験及び介助方法（校内にある段差やスロープなど）
 - ・身体障がい者のお話

(2) 会場校・対象者

- ・都立調布北高等学校 第1学年 全6クラス 236名

(3) 実施状況

1学年6クラスを対象に手話、車いすの講座を実施し、点字、ガイドヘルプ講座については、どちらか1講座を選択する方法で実施した。

日 程	手 話		ガイドヘルプ	点 字	車いす	
	1組	2組			5組	6組
1月15日(水) 6・7時間目	1組	2組	3組	4組	5組 6時間目 講義 7時間目 体験	6組 6時間目 体験 7時間目 講義
1月22日(水) 5・6時間目	3組	4組	5組	6組	1組 5時間目 講義 6時間目 体験	2組 5時間目 体験 6時間目 講義
1月29日(水) 5・6時間目	5組	6組	1組	2組	3組 5時間目 講義 6時間目 体験	4組 5時間目 体験 6時間目 講義

分析・課題

○校舎のバリアを有効活用した車いす・視覚障がいガイドヘルプ体験のプログラムおよびコースの作成、手話及び点字について体験プログラムの作成等を支援した。視覚障がい者2人、聴覚障がい者2人、身体障がい者2人の計6人の当事者スタッフと、ガイドヘルパー、手話通訳者、車いすの介助者12人、総計18人のスタッフを紹介。当事者による実生活での出来事、体験談、また介助体験、疑似体験の中でアドバイスすることにより、日々の生活で感じ得なかったこと、または見過ごしていたことの気づきを与えることができた。

○どのようにしたら、より障がい者が外に出て過ごしやすい空間が作れるか、高校生にできることは何かについて、考える機会を提供した。

○ここ数年、3学期1～2月の実施が続いているが、今年は特に寒さが厳しかったこともあり、

次年度は秋に実施する方向で、学校側が検討していただけることになった。

3 調布サマーボランティア2019

結果の概要

- 中学生以上の方を対象に、夏休み期間を利用したボランティア活動体験を実施した。活動体験の受け入れ先は、市内及び都内の福祉施設、社会教育施設や市民活動団体など。東京ボランティア・市民活動センターとの共催により、都内他地区ボランティア・市民活動センターとも連携し、幅広い地域から訪れる活動体験希望者と受け入れ先との調整を行った。
- 夏ボラ報告会を行い、体験者自身の振り返りを行う機会とするとともに他の参加者と体験を共有する時間を設けた。報告会後半は市民ボランティアの先輩の講演として、ボランティアをすすめる上での考え方やサードプレイスについて話をしていただき、今後のボランティア活動へつなげる機会をつくった。
- 活動報告、アンケートを提出してもらい、ボランティアを通して意識の変化について数値化した統計をとった。
- 申込み人数は昨年比で36%ほど増加し、昨年度より43名多く申込みがあった。

実績等

申込み	個別受付 (申込み説明会を除く)	計162人 7月1日(月)～7月14日(土) 9時～18時
	内容	・申込動機 ・概要説明、手続き詳細など
参加者人数及び活動別内訳	参加者総数	162人(男性36人 女性126人)
	年齢層内訳	中学生 60人 高校生 91人 大学生(短大含む) 7人 社会人 4人
	活動分野別内訳 (のべ数)	高齢者関係 36人 障がい者・児関係 29人 児童関係 167人 その他 106人
協力	66団体	内訳
	・	高齢者関係 11団体 18プログラム

団体・施設	76 プログラム	高齢者施設	8 団体	
		老人クラブ	1 団体	
		ボランティアグループ	0 団体	
		社協	2 団体	
		障がい者（児）関係	17 団体	19 プログラム
		障がい者（児）施設	14 団体	
		ボランティアグループ	3 団体	
		社協	0 団体	
		その他	0 団体	
		子ども関係	28 団体	28 プログラム
児童館・学童クラブ	10 団体			
	保育園	16 団体		
	その他	2 団体		
	公共施設、地域のイベントなど	10 団体	11 プログラム	
説明会	日時	・7月20日(土) 4回実施 10時～ 13時～ 16時～ 18時半～		
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・体験にあたって注意すべきこと ・各分野ゲストスピーカーからのお話し ・にこにこの会ふくふく 大畑様 ・ちょうふ花園 江口様 ・ちょうふ子どもネット 小林様 ・グループワーク「夏ボラでやってみたいこと」など 		
	参加人数	体験者 120人※不参加者は別日程にて個別ガイダンスを実施		
体験期間	ボランティア体験	7月20日(土)～8月31日(土)		
交流会	開催日時	8月23日(金) 16時～ 17時 8月28日(水) 17時～ 18時		
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験を話そう ・ボランティアの先輩から話を聞こう 		
	参加人数	体験者 23日49人、28日44人※不参加者は個別に修了証を授与		

分析・課題

- 「①今後もボランティアをしたいか」「②ボランティア情報や、市民活動支援センターからのお知らせを送ってよいか」という質問をしたところ、①今後もボランティアをしたいと答えた方は80%以上、②センターからのお知らせを送ってもよいという方は59%であった。

○HPでの閲覧を制限することで、センター来館時に初めてボランティア先の詳細を確認することとなり、ボランティア活動先決定・申込みの時間が長くなる傾向があった。また、ボランティア活動先候補が未決定なので、申込み時に保護者の同伴が多くなっている可能性が考えられる。

→WEB上で担当者・連絡先以外の情報を公開する

○今年度申込みをした方のうち、チラシから情報を得た方は26%、学校からは45%であった。HPからは19%で、インターネットSNSでの広報が弱かった。

→LINEをつかった広報を行い、情報を伝わりやすく、得やすいものにする。

チラシ、HPにて情報開示する際にLINEID、QRコードも掲載する

○3名サポートが必要な方の申込みがあったが、そのうち、2名は参加に至らずであった。個別支援が必要となり、受け入れ施設側とも事前の調整が必要である。

第7 職員の派遣・研修 他

1 他団体等への職員派遣

実績等

日程・期間	会議・講座名称	主催団体
4月11日(木)	旭出調布福祉作業所第三者委員	旭出調布福祉作業所
4月15日(月)	民児協全体会議	調布市民児協
4月23日(火)	東ボラ事務局連絡会議 東ボラ災害V○担当者会議	東京ボランティア・市民活動センター
5月16日(木)	図書館ボランティア説明会	調布市立図書館
5月29日(水)	調布市民放送局交流会	調布市民放送局
6月11日(火)	東京D&Iプロジェクト運営連絡会	東京ボランティア・市民活動センター
6月21日(金)	西東京社協ゆめこらぼ第三者評価委員	西東京社協
7月6日(土)	北ノ台地区協議会YDAS説明	北ノ台地区協議会
7月11日(木)	旭出調布福祉作業所第三者委員	旭出調布福祉作業所
7月12日(金)	東ボラD&Iセミナー	東京ボランティア・市民活動センター
7月22日(月)	西東京社協ゆめこらぼ第三者評価委員	西東京社協
7月25日(木)	民児協高齢福祉部会研修会 高齢者免許自主返納運動について	民児協高齢福祉部会
8月1日(木)	多摩7市市民活動情報交換会 第1回	7市連絡会
8月23日(金)	西東京社協ゆめこらぼ第三者評価委員	西東京社協
9月18日(水)	東ボラD&Iセミナー	東京ボランティア・市民活動センター
9月26日(木)	都共助社会づくり検討会	東京都
10月9日(水)	セカンドライフ応援講座	調布市文化生涯学習課
10月25日(金)	災害VC情報共有会議	東京ボランティア・市民活動センター
11月12日(火)	実篤記念館ボランティアガイダンス	武者小路実篤記念館
11月14日(木)	フラワーV○講座(福祉概論)	フラワーセラピー研究会
11月27日(水)	災害VC報告会	国立市社協
11月29日(金)	地域デビュー講座「ボランティアを考 える」	調布市地域デビュー推進委員会
12月2日(月)	調布市市民放送局交流会	調布市市民放送局
12月13日(金)	東京都災害担当者会議 災害VC報告	東京都/東京ボランティア・市民活動センター

12月20日(金)	調布市大学プラットフォームボランティア養成講座 災害VC報告	電気通信大学
1月7日(火)	調布青年会議所 新春交流会	調布青年会議所
1月11日(土)	調布市国際交流協会新年会	調布市国際交流協会
1月16日(木)	都共助社会づくり検討会	東京都
1月20日(火)	オリパラV.O協議会	調布市
2月4日(火)	北多摩南部ブロック役員研修 災害VC報告	北多摩南部ブロック
2月9日(日)	市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO2020 災害VC報告	東京ボランティア・市民活動センター
2月10日(月)	旭出調布福祉作業所第三者委員	旭出調布福祉作業所
2月11日(火)	都おもてなしボラティア研修会	東京都
2月18日(火)	ライオンズクラブ定例会	東京調布ライオンズクラブ
2月19日(水)	都共助社会づくり検討会	東京都
2月19日(水)	東ボラD&Iセミナー	東京ボランティア・市民活動センター
3月11日(水)	3・11調布慰霊祭	慰霊祭実行委員会
通年	すぎもり地区協議会会議	すぎもり地区協議会
通年	石原小地区協議会役員会	石原小地区協議会
通年	緑ヶ丘・仙川まちづくり会議	緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会
通年	都内ボランティア・市民活動センター センター長会議、事務局会議ほか	東京ボランティア・市民活動センター

2 職員研修

〇レベルアップを図るためそれぞれの経験年数、職務に応じた研修に参加した。

実績等

会議・講座名称	参加人数	主催団体
東ボラ新任研修-1	3	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラ新任研修-2	3	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラ新任研修-3	3	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラ新任研修-4	3	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラ新任宿泊研修	2	東京ボランティア・市民活動センター
2019年度災害ボランティアコーディネーター養成講座	1	東京ボランティア・市民活動センター
市民向けSDGs講座	1	NPO法人ちょうふこどもネット
ファンディング研修	1	日本財団

信頼できるNPO/NGOの選び方	1	一般財団法人非営利組織評価センター
調布市おもてなしボランティア研修	1	調布市 オリンピック・パラリンピック担当
外国人のための防災訓練	3	東京都生活文化局
ボランティア活動したい人のためのガイダンス	1	東京ボランティア・市民活動センター
NPO法人運営入門講座 10/2	1	東京ボランティア・市民活動センター
NPO法人運営入門講座 10/9	1	東京ボランティア・市民活動センター
普通救急救命講習会	7	調布社協
防災研修 マイタイムライン	1	調布市（総合防災安全課）
管理職研修 人事考課制度	1	調布社協
NPO法人運営入門講座 11/6	1	東京ボランティア・市民活動センター
調布社協希望の家・こころの健康支援センター 一見学研修	2	調布社協
こころの健康講演会「精神障がい・発達障がいのある方が企業で働くために」	1	調布社協
支援力アップ塾実務ステップアップ編①	1	東京ボランティア・市民活動センター
支援力アップ塾実務ステップアップ編②	1	東京ボランティア・市民活動センター
支援力アップ塾実務ステップアップ編④	2	東京ボランティア・市民活動センター
支援力アップ塾実践ゼミ編「ケーススタディゼミ」	1	東京ボランティア・市民活動センター
参加人数合計	43	

3 視察対応

○他地域からのセンター見学及び研修依頼に随時対応した。

実績等

日程	団体名等
4月 5日（金）	調布市新任職員見学研修受け入れ
4月25日（木）	東ボラ新任研修受け入れ
5月 7日（火）	東社協『福祉広報』取材「災害時の多様な連携」
6月10日（月）	福生社協ボランティアセンター職員施設見学
6月11日（火）	足立区NPO活動センター 3名視察対応
6月12日（水）	東京都共助社会づくり検討会担当者施設見学
6月28日（金）	早稲田大学法学部小西ゼミ 見学
7月 3日（水）	CSW研修生同行見学
7月 8日（月）	男女共同参画推進センター 中学生職場体験参加者 見学
7月26日（木）	東ボラ 区市町村ボランティア・市民活動センター新任職員研修
7月29日（月）	調布社協役員 施設見学
7月30日（火）	調布社協役員 施設見学

11月21日(木)	全社協職員 施設見学
11月25日(月)	NHK ラジオ 取材 『続く災害で今私たちができること』(写真洗浄ボランティア活動)
12月12日(木)	那覇市社協職員 施設見学
12月26日(木)	非営利組織評価センター
1月 8日(水)	新規採用予定者 施設見学
2月13日(木)	府中プラッツ職員 運営委員会見学
2月14日(金)	調布市民放送局取材
2月21日(金)	府中プラッツ職員 施設見学
3月 6日(金)	東社協『福祉広報』取材 「台風19号に対する都内災害ボランティアセンターの動き」

第8 調査・研究

結果の概要

○市民活動支援センター運営委員会で取り組む4つのテーマの内「市民が使いやすいセンターに！」の部会メンバーを中心に、武蔵野プレイスの視察及び今後のセンター利用者アンケート調査の方法について検討をした。

分析・課題

○調布の市民活動が活発になるためにセンターのありたい姿を検討する必要がある。次年度、市民活動支援センター運営委員会で協議をし、対象者(ペルソナ)を定めた上でアンケート調査を実施する。

第9 災害対策・支援(重点項目)

1 調布市における災害ボランティアセンターの設置・運営

結果の概要

- 10月12日夜間に台風19号による浸水被害が発生し、市民活動団体や多くの市民の協力を得て、14日から1週間災害ボランティアセンター(以下、災害VC)の設置を行った。
- 調布市と調布社協との「災害時におけるボランティア活動に関する協定」に基づき、災害VCの設置、運営について、調布市関係部署と協議を行い、設置予定地(総合体育館)の管理者(体育協会)、総合防災安全課と調整を行った。
- 協定締結から14年の年数がたった調布市と調布社協との「災害時におけるボランティア活動に関する協定」についての見直し作業を進めたが、新たな協定書による再締結まで進めることができなかった。

実績等

令和元年 台風19号被害 調布市災害ボランティアセンター 活動報告

設置場所 ; 調布市染地3-1多摩川住宅ト-7号棟集会所
(ト号棟管理組合様のご厚意により期間中借用)

設置期間 ; 令和元年10月14日(月・祝)~20日(日) 7日間
(14日は自主開所、15日から、正式な災害ボランティアセンターとして運営)

開設時間 ; 9:00~17:00(Vo受付9:30~ 活動開始10:00~15:30
報告後解散16:00 職員報告整理閉館17:00)

活動エリア; 染地3丁目付近冠水被害エリア

月日	調布社協職員	北多摩南部ブロック	対応職員数	参加Vo人数	完了ニーズ	その他 特記事項
10/14(月・祝)	2	1 (TVAC)	3	43	6	市民活動支援センターとして対応 ・地下室からの水没した家財道具の運び出し
10/15(火)	2	0 なし	2	30	11	災害ボランティアセンターとして正式設置 ・水に浸かった家財道具の運び出し
10/16(水)	7	1 (府中社協)	8	57	21	・水に浸かった家財道具の運び出し、清掃 他
10/17(木)	6	2(社協・TVAC)	8	64	13	・水に浸かった家財道具の運び出し、清掃 他
10/18(金)	7	1 (三鷹社協)	8	35	8	・水に浸かった家財道具の運び出し、清掃 他
10/19(土)	4	1 (府中社協)	5	44	3	21日以降の相談対応のチラシ配布 ・水に浸かった家財道具の運び出し、清掃 他
10/20(日)	6	1 (三鷹社協)	7	108	2	集会所・駐車場・用具等の清掃も行う ・水に浸かった家財道具の運び出し、清掃 他
合計	34	7	41	381	64	

※21日以降のボランティアニーズは、市民活動支援センターで受け付け、現地調査を行い、訪問日を確定しボランティアとの調整をする。

※21日以降協力可能なボランティアの方には、センターに登録してもらい、必要に応じてセンターから依頼を行う。

※その他の相談については、11月2日(土)まで、染地地域福祉センター染地コーナーにて調布社協職員が相談対応にあたる。

分析・課題

- 初めての体験となる災害VCの設置に、戸惑いと不安の中、試行錯誤しながらも多くの方々の協力により、役割を果たせていたと思われる。
- 被災されたマンションの自治会長との連携がうまくいき、支援の組み立てができた。
- ボランティア募集等の情報発信については、検討する課題がある。
- 今回災害ボランティアとして活動された方で希望者には、登録をしていただき、以後の活動につなげていくことができた。登録者は82人となった。

- 災害VCの設置・運営については、今回の経験を活かし、水害、地震等の自然災害発生を想定
のうえ、より具体的な内容になるよう、さらに調布市関係部署と協議を進め、協定書の修正を
行い、再締結が必要になるとともに、「設置・運営マニュアル」の作成が急務となっている。
- 災害時に災害VC運営に協力していただける市民、企業に向け、災害時ボランティア講座等の
継続的な実施が必要となっている。

2 災害ボランティアセンター運営後の取り組み

(1) 活動

名 称	茶話会
日 時	11月1日(金) 午後1時30分～3時
会 場	染地コーナー
内 容	災害ボランティアセンターを利用した被災者へのチラシ配布、近隣エリアへのポ スティングによる広報を通じて、ゆるやかな相談・情報交換の場をつくった。 (主催は地域福祉コーディネーター・生活支援コーディネーター)

名 称	写真洗浄ボランティア活動
日 時	初回 11月2日(土) ※以後、原則毎週 木曜・土曜
会 場	染地コーナー
内 容	水害で泥水等に浸かった写真・アルバムをお預かりし一枚一枚洗浄する活動。 こころの健康支援センターのグループワークプログラムとしても受入れをした。
特 記	・令和2年3月より市民活動団体「調布SPV (Saigai Photo Volunteer)」として 活動開始 ・1月18日(土)、25日(土)に生活支援コーディネーターが地域支え合い講 座として写真洗浄ボランティア講座を実施。 ・1月23日(木)こころの健康支援センターのグループワークプログラムとし て受入れ

名 称	まずは大人がやってみよう！多摩川クリーン作戦下見ウォーク
日 時	11月4日(月・祝) 午前8時～11時
会 場	多摩川河川敷
内 容	日頃多摩川河川敷が交流の場となっている市民25人が参加し、サッカー場やサ イクリングロードのゴミ拾いをした。

(2) 講演依頼及び取材

日程	名称	主催団体等
11月25日(月)	続く災害で今私たちができること(写 真洗浄ボランティア活動)	NHK ラジオ
11月27日(水)	国立市社協職員向け災害VC報告会	国立市社協

12月13日（金）	東京都災害担当者会議	東京都／東京ボランティア・市民活動センター
12月20日（金）	調布市大学プラットフォームボランティア養成講座	電気通信大学
2月4日（火）	北多摩南部ブロック役員研修	北多摩南部ブロック連絡会
2月9日（日）	市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO2020「その『災害への備え』は自分事になっていますか？」	東京ボランティア・市民活動センター
3月6日（金）	福祉広報 「台風19号に対する都内災害ボランティアセンターの動き」	東京都社協

3 調布市災害ボランティアセンター（旧；調布市被災者支援ボランティアセンター）のサイト運営

結果の概要

- 名称を「調布市災害ボランティアセンター」と改称した。
- 10月の台風被害の時の情報発信ツールとして活用した。
- 調布市被災者支援ボランティアセンターは、東日本大震災後設置された味の素スタジアムの避難所で、ボランティアと共に避難生活をサポートすることを目的に設置され、現在もサイト上やフェイスブックで情報を交換している。
- 災害ボランティア講座等、災害にかかわるイベント情報なども情報提供を行った。
- Twitter、Facebook ページにて復興支援情報の拡散を行い、市民同士の交流となった。
- 当サイトの脆弱性への対応として、サイト運営者と協議の上、年間2回のセキュリティーチェックを実施するとともに、外部機関によるサイトの脆弱性のチェックを行った。

実績等

- 10月の台風19号被害時には、ボランティア募集、活動後のボランティア登録の情報発信を行った。
- 災害支援の募金活動、災害ボランティア講座、調布市総合防災訓練等の情報提供を行った。
- セキュリティーチェックを年間2回実施した。
- 外部機関によるサイトの脆弱性のチェックを行った。

分析・課題

- 災害時にすぐに運用が開始できるように、最低限のサイトの維持管理は行っている。必要な問い合わせ対応などは市民活動支援センターホームページで対応する。
- サイトの脆弱性については、サイトの安全性を担保する必要性から、常に変化する課題へ対応するため、年間で複数回のチェック及び更新作業を継続的に行っていく必要がある。

4 災害ボランティア養成講座の開催

結果の概要

- 今年度も「災害ボランティア養成講座」（3回）を開催し、調布市における災害時に協力していただける人材の育成を行った。
- 第3回の調布市総合防災訓練は台風19号の影響により中止となった。
- 2回の講座に延べ37人の参加があった。

実績等

- 第1回 10月3日（木） 19：00～21：00 あくろす会議室—①
「避難所運営の現場でのノウハウ」
講師；AARJapan 野際紗綾子氏
参加人数21人
- 第2回 10月30日（水） 19：00～21：00 あくろす会議室—①
「HUG避難所運営ゲーム」で模擬体験
講師；NPO法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし理事 神元幸津江氏
参加人数16人
- 第3回 11月10日（日） 9：00～12：00 多摩川河川敷総合防災訓練会場
「調布市総合防災訓練」ボランティア参加 台風19号の影響により中止

分析・課題

- 調布市における災害発生時に活動できる人材の発掘・育成につなげていくためにも、継続的な開催が必要。
- 様々な場面を想定した災害ボランティア講座（ステップアップ編）等の開催の検討が必要。
- 受講された方々に災害ボランティアセンターに協力していただける登録制度を作り登録をお願いした。

5 調布市総合防災訓練への参加【中止】

結果の概要

- 調布市総合防災安全課と連携し、調布市総合防災訓練の会場に「災害ボランティアセンター」の設置を行う予定であったが、台風19号の影響で訓練会場が使えず中止となった。
- 今回も「災害ボランティア養成講座」の1枠としてくみこみ、受講生が参加の予定であった。

分析・課題

- 今回は中止となったが、今後も講座の受講生も含め、多くの市民の方々に参加していただける工夫が必要。
- 実際に立ち上がった災害VCの経験を生かした訓練内容になるように課題の整理が必要。
- 頻発する自然災害に備え総合防災訓練をより実践的な動きとつなげていくためにも、災害ボランティアセンター立ち上げ・運営マニュアルの準備を急ぐ必要がある。

6 北多摩南部ブロックボランティアセンター連絡会の取り組み

(1) 共催事業実施内容

名 称	モット！炊き出しを知ろう！in 小金井
日 時	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 (予定：3月8日(日) 午前10時30分～午後2時30分)
会 場	長昌寺(小金井市梶野町2-7-5)
内 容	1部 10時30分～12時 炊き出しメニューの試食、ハイゼックス炊飯体験、イザ！カエルキャラバン、 アレルギー対応に関する情報提供ブース 2部 12時30分～14時30分 「食と居場所」についての情報交換会(話題提供：こまえアレルギーの会)

(2) 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センター担当者連絡会

実 施 回 数	6回
参 加 者	小金井ボランティア・市民活動センター、府中ボランティアセンター、みたかボランティアセンター、調布市市民活動支援センター、東京ボランティア・市民活動センター、認定NPO 法人難民を助ける会 [AAR JAPAN]
内 容	共催事業内容の検討や各センターの情報交換など

分析・課題

- 各市とも災害ボランティアセンター担当部署であるため「災害」を共通テーマとした継続的な情報交換が重要であった。結果として、台風19号における災害ボランティアセンター(東京都、狛江市、調布市)の設置・運営にあたっては、迅速でスムーズな連携を図ることができた。
- 中止となったイベントについて、これまで取り上げたことのない「アレルギー」をテーマとした為、企画段階で試行錯誤はあったが各市センターが今後災害ボランティアセンターを運営する上で配慮すべき点について理解を深めることができた。